

4. 現地調査

4.1 調査の概要

前回の平成30年度調査からの緑の変化について、実態を明らかにするために以下の項目について現地調査を行った。

(1) 調査項目

- ・ 大径木 : ①平成30年度調査対象木の確認
②新たに対象となる大径木の確認
- ・ 生け垣 : ①平成30年度調査対象生け垣の確認
②道路に面する生け垣の確認
- ・ 生け垣余地 : 延長20m以上の生け垣が設置可能な場所の確認
- ・ 壁面緑化 : ①平成30年度調査対象壁面緑化の確認
②新たに対象となる壁面緑化の確認
- ・ 緑視率 : 平成30年度調査対象地点での緑視率の経年変化

(2) 調査期間

令和5年6月～11月

(3) 調査方法

- ・ 平成30年度の調査実績をもとに、各項目について調査対象の有無を確認し、存在した場合は調査を行う。
- ・ 各項目の新たな調査対象を空中写真などから抽出し、新規に調査を行う。
- ・ 調査結果は地理情報システムデータとして整備する。



図4.1.1 現地調査状況

4.2 調査結果

(1) 大径木

①大径木の定義

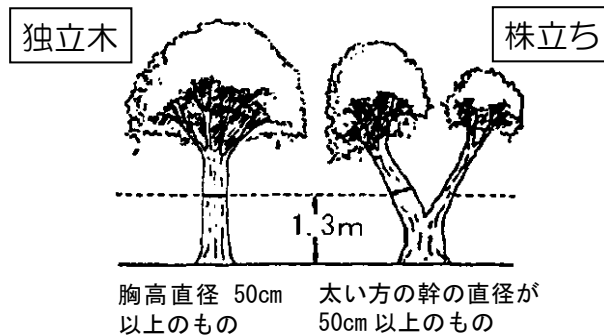
- ・胸高（地上1.3mの高さ）の直径が50cm以上あるもの
- ・保護樹木※の指定を受けているもの

※保護樹木：次の3つのいずれかの基準を満たすもので北区が指定するもの

1. 1.5mの高さにおける幹廻りが150cm以上で高さが15m以上
2. 登はん性樹木については枝張りの面積30㎡以上
3. 歴史的由緒又は稀少価値のある樹木で区長の認めるもの

②調査方法

- ・対象木の有無
- ・樹形：独立木、株立ちの区分
- ・樹種：葉や樹皮の形状、樹形、花の形状などから判定
- ・直径：地上約1.3mの高さの直径



- ・樹高：目視により測定（高いものはレーザー計測機で測定）
- ・健康度：以下の「樹形・傾き・枝葉の密度・空洞・キノコ」の項目について点数化（1～3点）し、それらを合計した点数を健康度とした。

観察項目	良好（1点）	普通（2点）	不良（3点）
樹形	自然樹形に近い （主幹・骨格となる大枝の 枯損・欠損がない）	良好・不良以外のもの	自然樹形が完全に崩壊している
傾き	主幹の傾きがほとんどない	良好・不良以外のもの	主幹が著しく傾いている
枝葉の 密度	枝葉が全体的に分布している	良好・不良以外のもの	枝葉の枯死が多く、葉の発生が 少なく、密度が著しく疎である
空洞	ウロや空洞がない	良好・不良以外のもの	主幹や根の付近にかなり大きな ウロや空洞ができています
キノコ	キノコの発生がない	良好・不良以外のもの	キノコの発生が多数見られる

- ・土地利用区分：以下の種別で区分した。

土地利用区分	内容
1. 公園	公園、児童遊園、運動場、緑地
2. 学校	小・中・高等学校、大学、幼稚園、保育園
3. 公共施設	公共施設
4. 寺社境内	寺院、神社、教会、墓地
5. 集合住宅	アパート、マンション、社宅、寮
6. 個人住宅	一般住宅
7. 事業所	事務所、工場、商業用地
8. その他	河川敷、駐車場、道路（街路樹）、線路、空き地、斜面地

③調査結果

ア. 本数

(i) 区全体、各地区の大径木本数

4,071 本※¹

- 大径木は、JR京浜東北線以西、武蔵野台地の東端部に位置する赤羽西、王子西および滝野川西といった区西部の地区に多く分布しており、大規模な公園、学校、神社、河川敷等に見られる。

【浮間地区】浮間公園、ゴルフ場、荒川河川敷

【赤羽西地区】桐ヶ丘中央公園、赤羽緑道公園、学校

【王子西地区】名主の滝公園、中央公園、王子神社、学校

【滝野川西地区】旧古河庭園、飛鳥山公園（東側）※²、滝野川公園、学校

- JR京浜東北線以东、東側低地部にある赤羽東、王子東および滝野川東地区は、大径木の本数が比較的少なくなっている。これは、関東大震災後に急激に開発が進み、住宅や工場が増え、商工業的な土地利用がなされていることに起因していると考えられる。
- 東側低地部における大径木は、王子東地区では、飛鳥山公園（西側）※²にややまとまって分布しているほか、大規模な集合住宅や神社等に点在している。赤羽東地区では、公園、学校等にややまとまったの分布がみられる。

※¹ 前回調査で確認されたが、今回調査で直径などを直接確認できなかったもの55本を含む4,071本が対象である。

※² 飛鳥山公園は、地区をまたがって存在するため、滝野川西地区（西ヶ原二丁目）を東側、王子東地区（王子一丁目）を西側として区分している。

資料編P.31参照

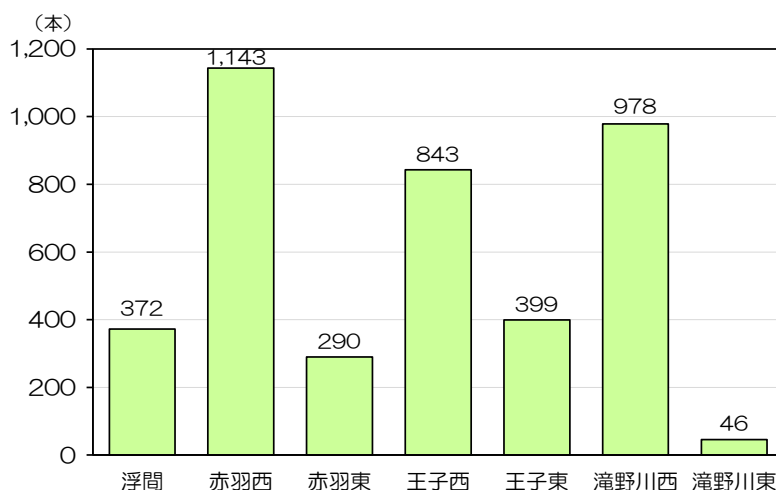
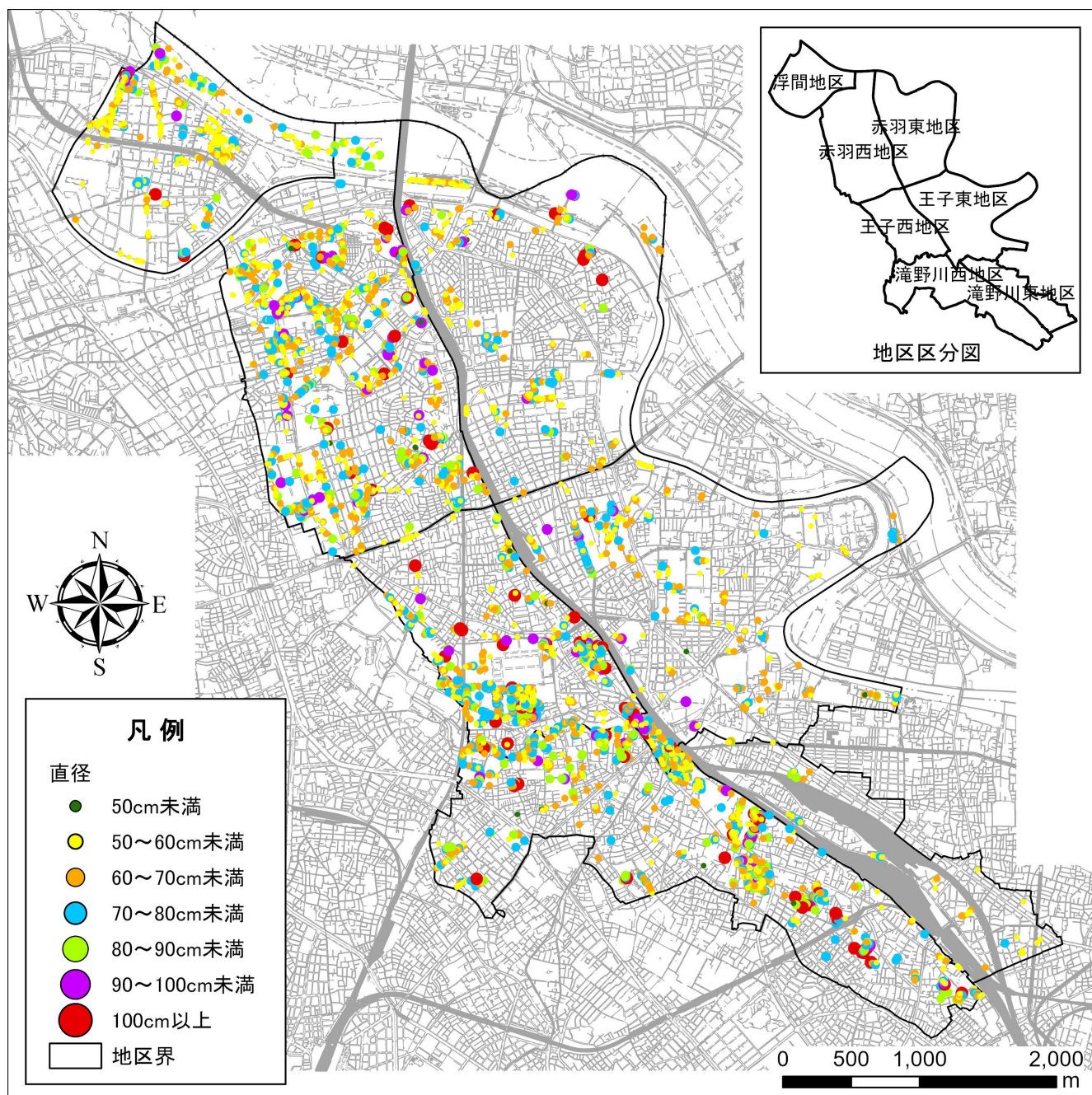


図4.2.1 地区別の大径木の本数



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図4.2.2 大径木分布図

(ii) 町丁目別の大径木本数

- 大径木が120本以上ある町丁目は、十条台一丁目、浮間二丁目など6町丁目であり、飛鳥山公園（西側）が所在する王子一丁目以外は区西部に集中している。
- 1haあたり5本以上の大径木があるのは、浮間二丁目や十条台一丁目、西ヶ原一丁目等、10町丁目であり、全て区西部にある。土地利用区別では大きな公園、寺社境内、学校のほか、ゴルフ場、河川敷などに大径木が分布している。
- 大径木がないのは、東十条一丁目、昭和町一丁目、志茂二丁目など7町丁目となっており、そのうち6町丁目が区東部にある。これらの地区は、JR東十条駅周辺等、商工業的な土地利用の割合の高い地区である。
- 大径木本数の多い上位5町丁目には、中央公園（258本）※、飛鳥山公園（198本）※、旧古河庭園（191本）など、大きな公園が含まれている。

※町丁目をまたぐ公園は、公園全体の本数となっている。中央公園は、十条台一丁目241本、王子本町三丁目17本であった。同様に、飛鳥山公園は西ヶ原二丁目（東側）97本、王子一丁目（西側）101本であった。

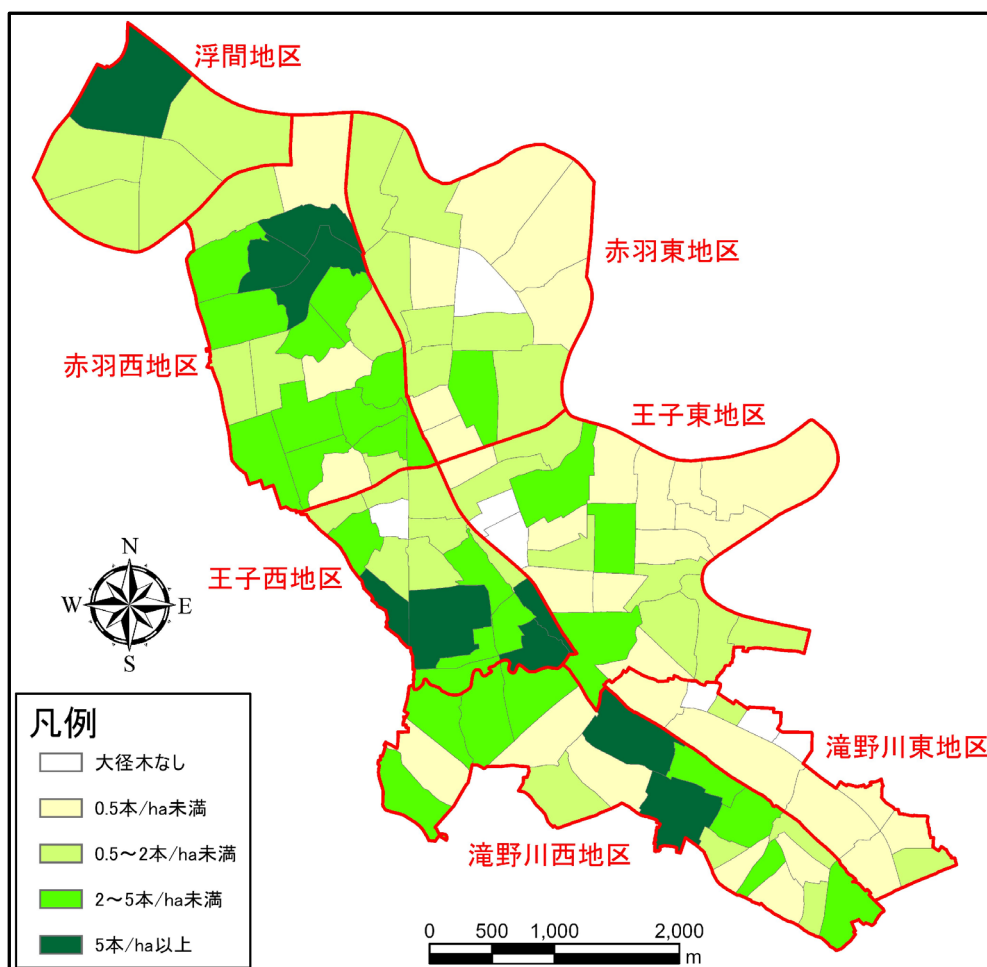


図4.2.3 町丁目別の大径木の分布状況

イ. 樹種

- ・ 樹種は28科63種確認された。
- ・ サクラ（1,219本）とケヤキ（813本）の2樹種で全体の約5割を占めており、サクラは、すべての地区で最も割合が高くなっている。
- ・ 樹種が多い地区は、滝野川西地区、王子西地区、赤羽西地区の西側の3地区である。
- ・ 浮間地区は、都立浮間公園と街路樹（道路）にケヤキが多く見られる。
- ・ 滝野川西地区においてスダジイの割合が高くなっているのは、旧古河庭園に100本以上の大径木が存在しているためである。

資料編P.31参照

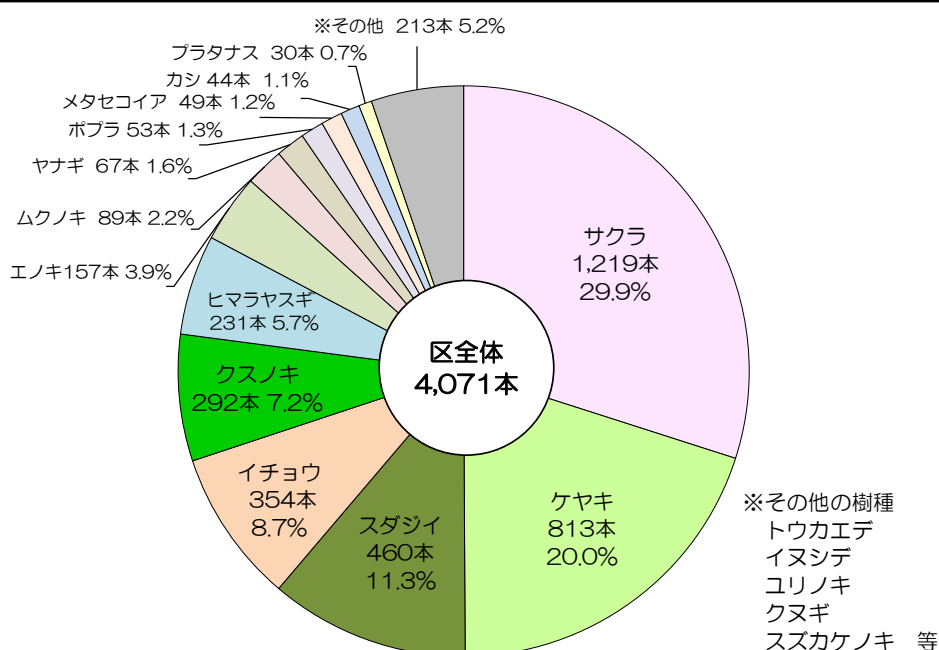


図4.2.4 樹種別の本数と割合

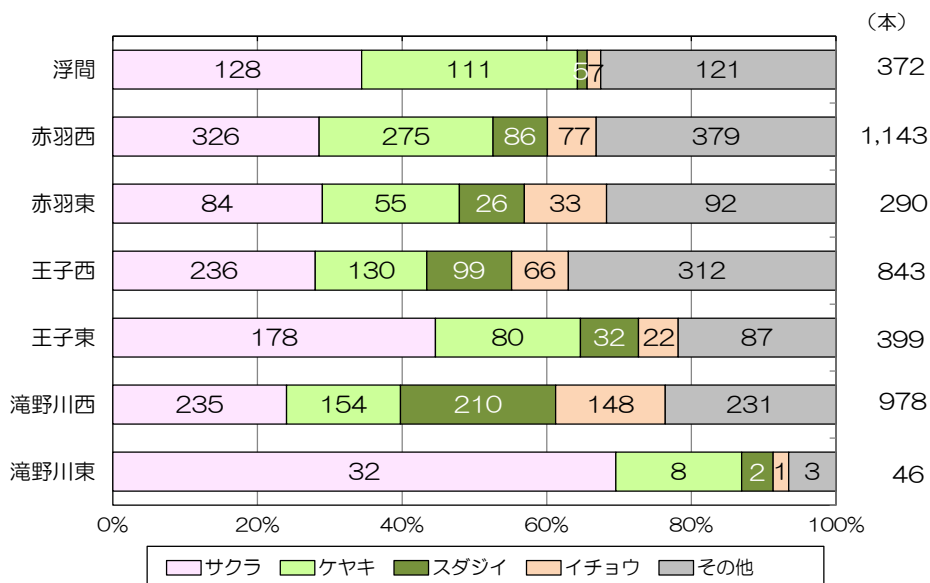


図4.2.5 地区別の主な樹種の割合

ウ. 直径

・直径ランキング※

1位：熊野神社（赤羽東地区）のイチョウ（186cm）

2位：王子神社（王子西地区）のイチョウ（167cm）

3位：個人宅（滝野川西地区）のスダジイ（160cm）

- ・上位10本のうち5本が寺社境内にあるイチョウである。
- ・直径100cm以上の樹木は、85本存在しており、75本が区西部に分布している。また、土地利用区分別にみると、寺社境内、公園の占める割合が高くなっている。
- ・古くから存在する寺社境内や歴史にゆかりのある公園は、開発による伐採などの消失リスクも低く、維持管理も実施されているため、樹木の大径木化がより可能になると考えられる。
- ・直径80cm以上の大径木が多い滝野川西地区、赤羽西地区、王子西地区の主な分布場所は、平塚神社、旧古河庭園および飛鳥山公園（東側）、桐ヶ丘中央公園、中央公園、名主の滝公園などである。

※前回、熊野神社のイチョウはランク外であったが、形状が特殊なうえ、目視調査による結果であった。今回、実測により直径が判明したことで、1位となった。

資料編P.32参照

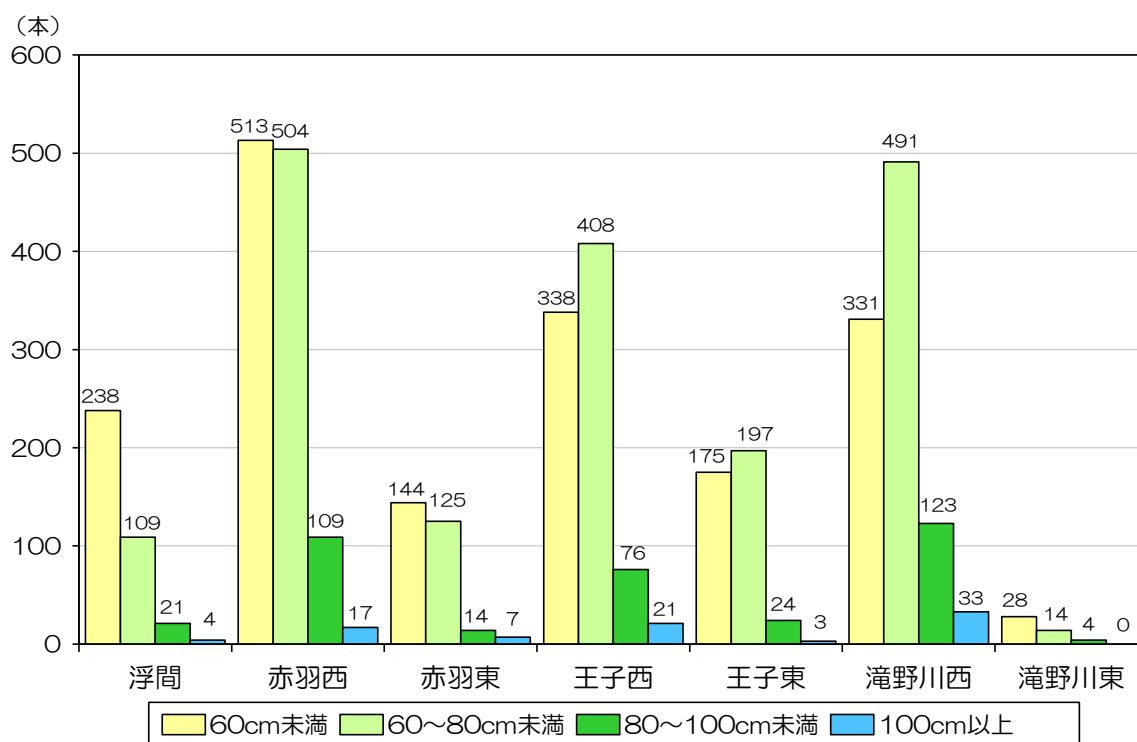


図4.2.6 地区別の直径区分別の本数

表4.2.1 直径ランキング

順位	画像	直径・樹種・所在地	
1位		直径	186cm
		樹種	イチョウ
		所在場所	熊野神社
		所在地区	赤羽東地区
		所在町名	志茂四丁目
2位		直径	167cm
		樹種	イチョウ
		所在場所	王子神社
		所在地区	王子西地区
		所在町名	王子本町一丁目
3位	個人宅につき 画像なし	直径	160cm
		樹種	スダシイ
		所在場所	個人宅
		所在地区	滝野川西地区
		所在町名	西ヶ原一丁目
4位	個人宅につき 画像なし	直径	150cm
		樹種	クスノキ
		所在場所	個人宅
		所在地区	王子西地区
		所在町名	岸町二丁目
5位		直径	135cm
		樹種	イチョウ
		所在場所	寿徳寺
		所在地区	王子西地区
		所在町名	滝野川四丁目

エ. 樹高

・ 樹高ランキング※1

1位：桐ヶ丘中央公園（北側）※2（赤羽西地区）のポプラ3本（30m）

飛鳥山公園（西側）（王子東地区）のプラタナス（30m）

5位：赤羽緑道公園（赤羽西地区）のクヌギ（28m）

桐ヶ丘中央公園（北側）※2（赤羽西地区）のポプラ（28m）

- ・ 20m以上の樹木は、564本存在し、ケヤキ、ヒマラヤスギ、イチョウなどが多い。
- ・ 20m以上の樹木は、ほとんどが公園、寺社境内、学校に分布し、さらにその半数以上が桐ヶ丘中央公園と中央公園など大きな公園に集中している。これらの場所は、直径同様、樹高が高い樹種の植栽が可能であること、植栽後の維持管理も適正に行われることなどに起因していると考えられる。

※1 前回、最も樹高の高かった中央公園のヒマラヤスギ3本は伐採されていた。

※2 桐ヶ丘中央公園は、町丁目をまたがって存在するため、桐ヶ丘一丁目を南側、桐ヶ丘二丁目を北側として区分している。

資料編P.32～33参照

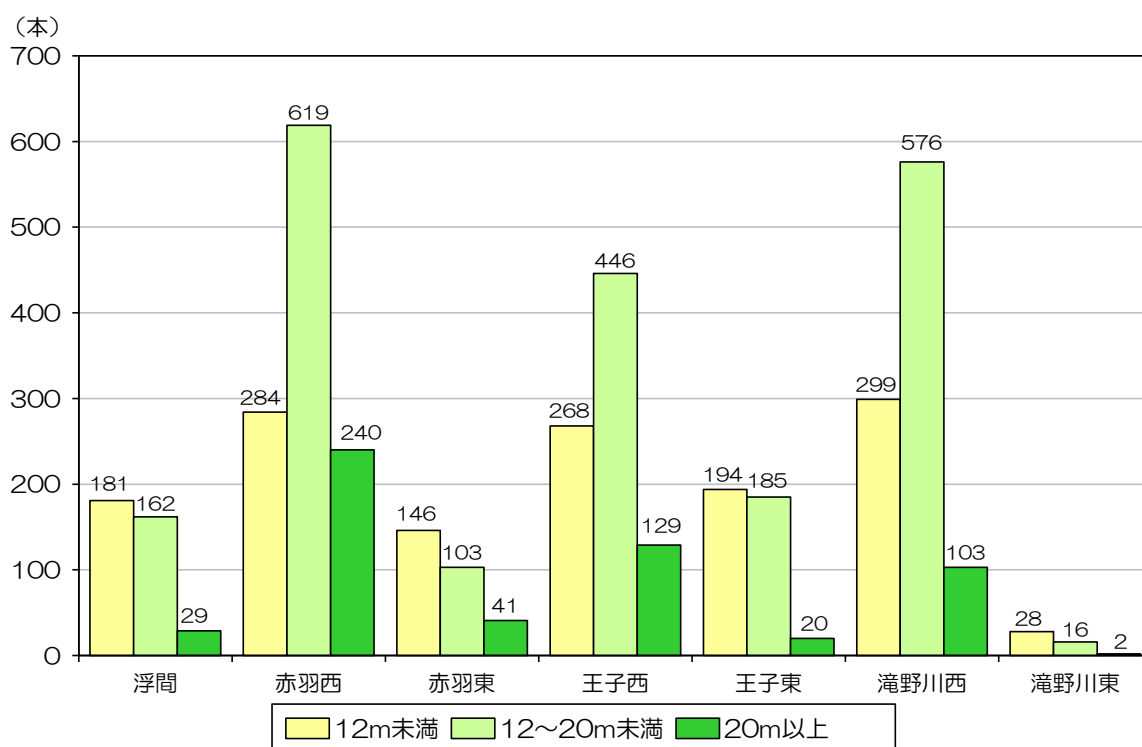


図4.2.7 地区別の高さ区分別の本数

表4.2.2 樹高ランキング

順位	画像	樹高・樹種・所在地	
1位		樹高	30m
		樹種	ポプラ
		所在場所	桐ヶ丘中央公園（北側）※
		所在地区	赤羽西地区
		所在町名	桐ヶ丘二丁目
1位		樹高	30m
		樹種	プラタナス
		所在場所	飛鳥山公園（西側）
		所在地区	王子東地区
		所在町名	王子一丁目
5位		樹高	28m
		樹種	クヌギ
		所在場所	赤羽緑道公園
		所在地区	赤羽西地区
		所在町名	赤羽台三丁目
5位		樹高	28m
		樹種	ポプラ
		所在場所	桐ヶ丘中央公園（北側）
		所在地区	赤羽西地区
		所在町名	桐ヶ丘二丁目
7位		樹高	26m
		樹種	イチョウ
		所在場所	正受院
		所在地区	滝野川西地区
		所在町名	滝野川二丁目

※1位は、樹高30mの大径木4本で、そのうち3本が桐ヶ丘中央公園（北側）に存在する。

オ. 健康度

- ・ 約9割の樹木で「キノコ」の発生がないことから、多くの樹木が樹勢の低下を招くことがない環境で健全に生育していると考えられる。
- ・ 一方、「樹形」と「枝葉」については、「不良」の割合が高くなっている。これは、不適切な剪定等に起因するものがあると考えられる。
- ・ 総合判定で、「普通（8～11点）」が全体の8割以上を占めている。
- ・ 樹種別の健康度をみると、サクラの平均健康度は10となっている。これは、他の樹種に比べ老木など樹勢の弱い大径木が多いことや、樹種の更新が追い付かないことが原因と考えられる。
- ・ 主要樹種の健康度と平均直径の関係には、特に相関はみられない。

※前回調査で確認されたが、今回調査で直径などを直接確認できなかったもの55本を含まない4,016本が対象である。

資料編P.33～34参照

表4.2.3 全大径木の健康度の項目別本数

観察項目	良好（各1点）		普通（各2点）		不良（各3点）	
	本数	割合（％）	本数	割合（％）	本数	割合（％）
樹形	117	2.9	3,257	81.1	642	16.0
傾き	302	7.5	3,537	88.1	177	4.4
枝葉	304	7.6	3,219	80.2	493	12.3
空洞	1,855	46.2	1,840	45.8	321	8.0
キノコ	3,618	90.1	244	6.1	154	3.8

表4.2.4 全大径木の健康度別本数

観察項目	良好（5～7点）		普通（8～11点）		不良（12～15点）	
	本数	割合（％）	本数	割合（％）	本数	割合（％）
総合（点）	357	8.9	3,476	86.6	183	4.6

表4.2.5 全大径木の樹種別健康度と本数

健康度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	平均
樹種												
サクラ	2	0	9	144	604	197	167	40	40	4	1	10
ケヤキ	8	18	66	439	154	78	24	13	5	1	0	8
スダジイ	2	3	13	96	160	82	53	30	7	3	0	9
イチョウ	10	22	53	130	78	41	9	7	0	0	0	8
クスノキ	3	5	13	167	54	38	6	3	1	0	0	8
ヒマラヤスギ	1	8	52	90	45	26	0	0	0	0	0	8
エノキ	2	3	14	68	41	18	2	3	2	0	0	9
ムクノキ	0	1	2	18	44	12	8	2	0	0	0	9
ヤナギ	0	0	0	26	14	7	12	5	2	0	1	10
ボブラ	0	0	1	29	12	8	1	2	0	0	0	9
メタセコイア	0	4	17	21	6	1	0	0	0	0	0	8
カシ	0	1	1	22	11	6	0	2	0	0	0	9
ブラタナス	0	3	4	11	7	2	1	0	0	0	0	8
その他	1	1	14	69	65	40	12	6	2	1	0	9
合計	29	69	259	1,330	1,295	556	295	113	59	9	2	9

※着色部分は健康度の最大数を示す。

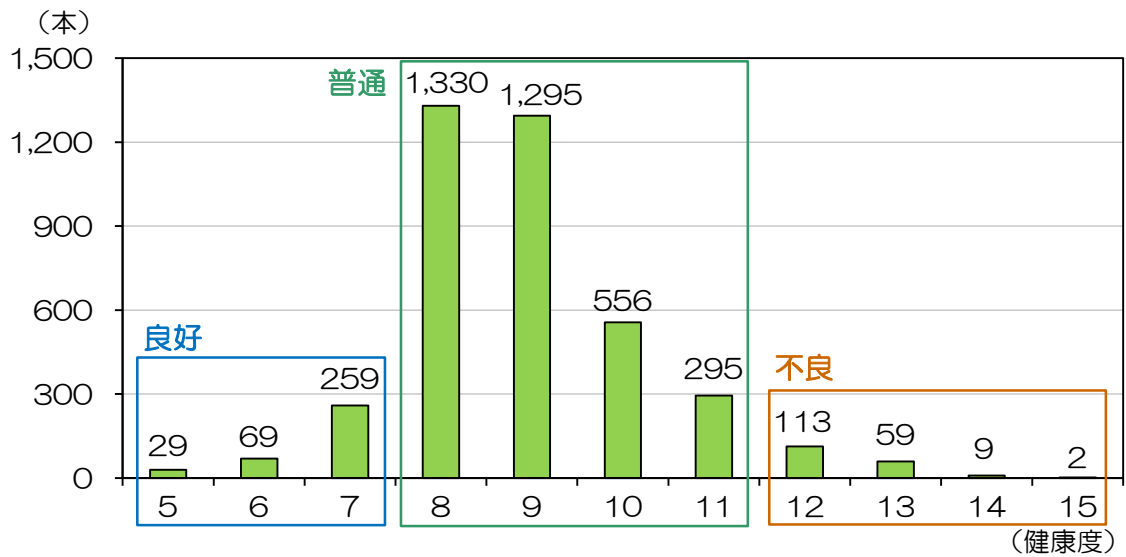


図4.2.8 全大径木の健康度

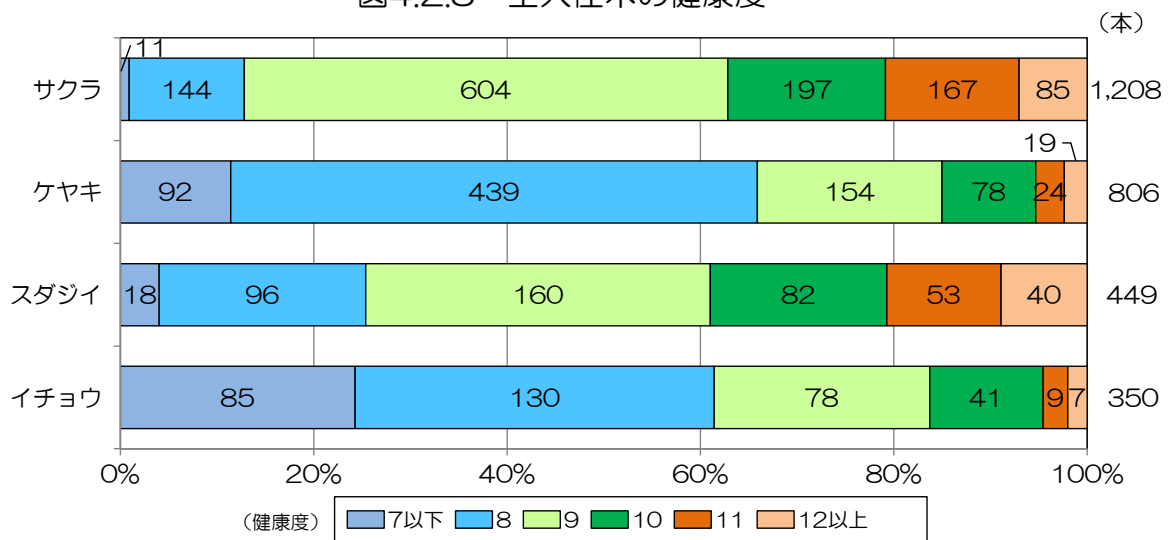


図4.2.9 主要樹種の健康度

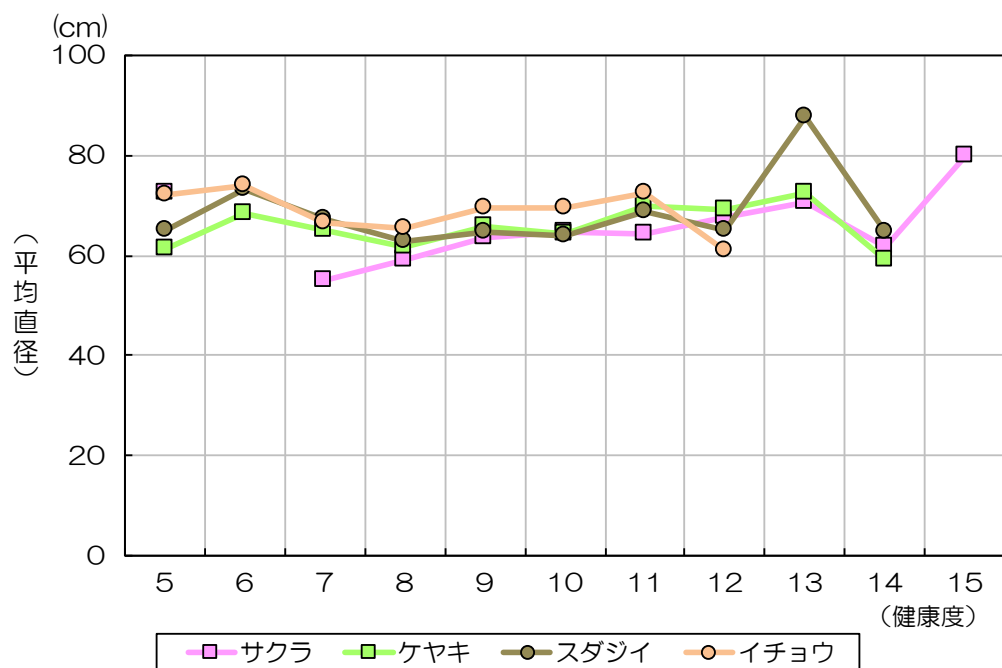


図4.2.10 主要樹種の健康度と平均直径の関係

調査の概要		北区の概況		緑被調査		現地調査		地表温度調査		植物種数調査		緑のカルテ		資料編	
<u>アイコンについて</u> 健康度判定の項目で良好または不良な状態をアイコンで示しました。		良好 ← 樹形 → 不良 良好 ← 傾き → 不良 良好 ← 枝葉の密度 → 不良 ※「空洞」と「キノコ」の無い樹木が「良好」のため、アイコンはありません。 空洞 → 不良 キノコ → 不良		        											
		  				  									
王子東地区 東京成徳大学中学・高等学校のクスノキ（5点）				赤羽西地区 桐ヶ丘体育館のヒマラヤスギ（5点）											
		  				  									
赤羽東地区 正光寺のサクラ（5点）				王子西地区 中央公園のケヤキ（6点）											

図4.2.11 健康度が良好な大径木の代表例



図4.2.12 健康度が不良な大径木の代表例

力. 土地利用区分

- ・大径木は公園と学校、寺社境内の3区分で全体の約7割を占めている。
- ・公園では、ケヤキが最も多い。ケヤキは、樹形が美しい、生長の早さなどの特性が植栽に関係していると考えられる。
- ・学校、公共施設では、サクラの占める割合が高く、区の木でもあることから公的機関に多く分布している傾向がある。
- ・イチョウは、寺社境内で多くなっている。これは、イチョウが水分を多く含む難燃性の樹木であることから、火災時の延焼防止、また、シンボルツリーの役割など、慣習にちなんだ植栽と考えられる。
- ・その他の土地利用では、荒川河川敷のほか、石神井川や隅田川沿いの歩道などにサクラが多い。これは、かつての防災対策として、根を張るサクラを植栽し、サクラを見る人々が周囲を踏み固めていった名残と考えられる。

資料編P.34参照

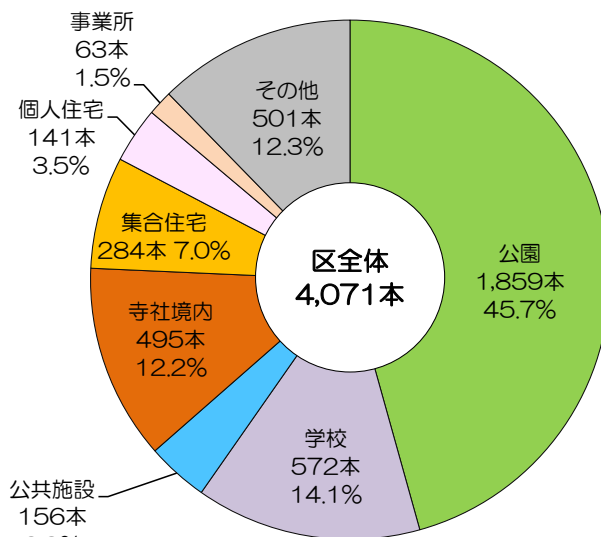


図4.2.13 土地利用区分別の本数割合

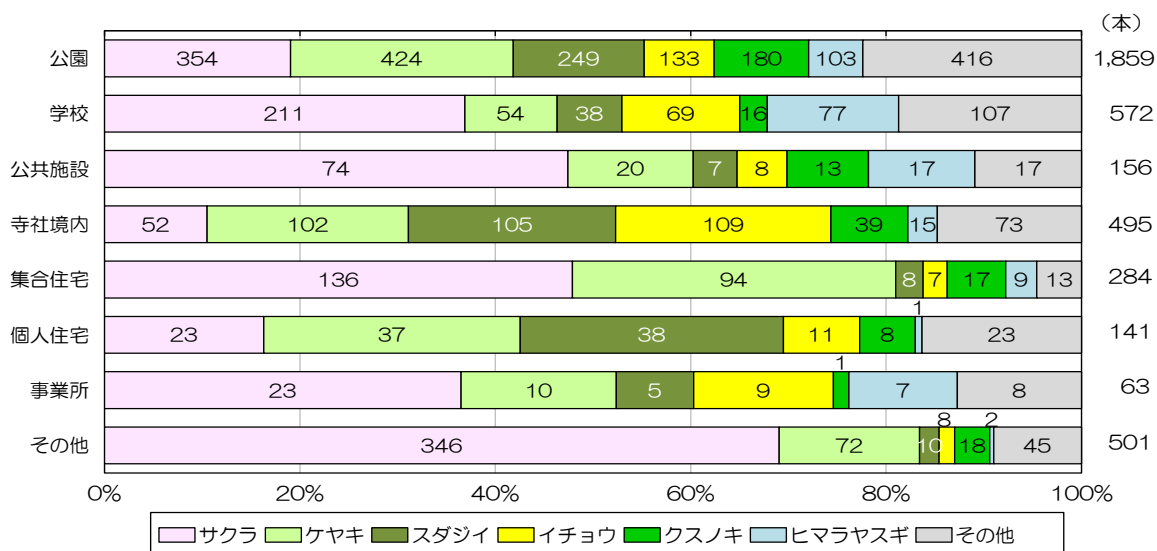
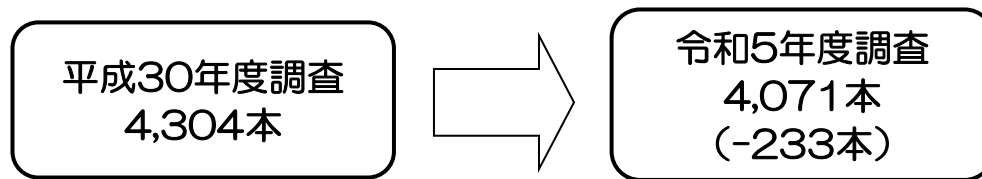


図 4.2.14 土地利用区分別の樹種別本

※土地利用区分については P.68 参照

キ. 経年変化

(i) 区全体の大径木の経年変化



- ・ 全体本数の減少は、伐採、建設行為、植え替えが大きく影響している。
- ・ 地区別では、王子東地区が最も増加した。これは、地区再編による影響であると考えられる。
- ・ 対象木の本数減少と消失本数が増加したパターンは平成15年度調査以来であり、病虫害対策や開発行為による伐採、消失のほか、植え替えなどで樹木の更新が進んでいるものと思われる。

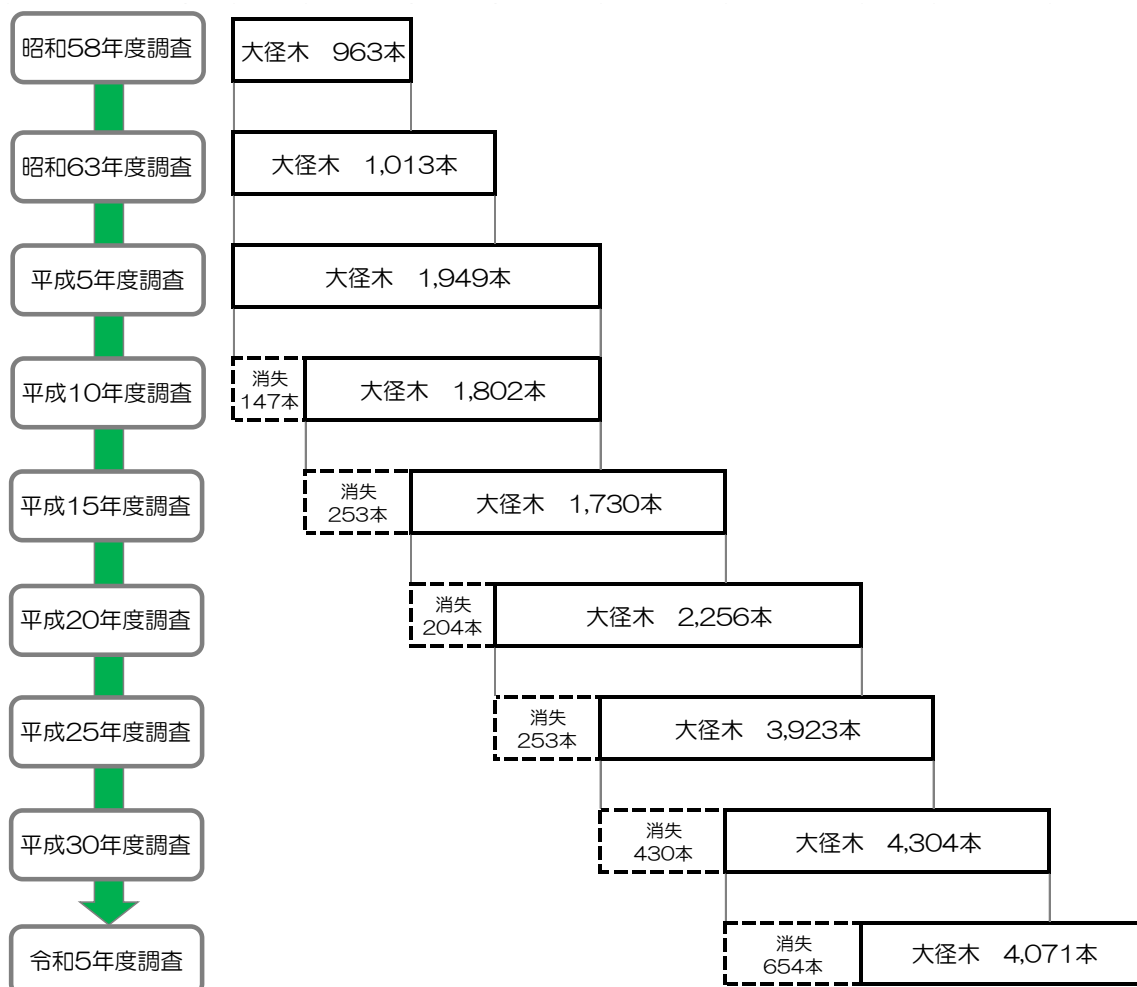


図4.2.15 大径木の調査結果の推移

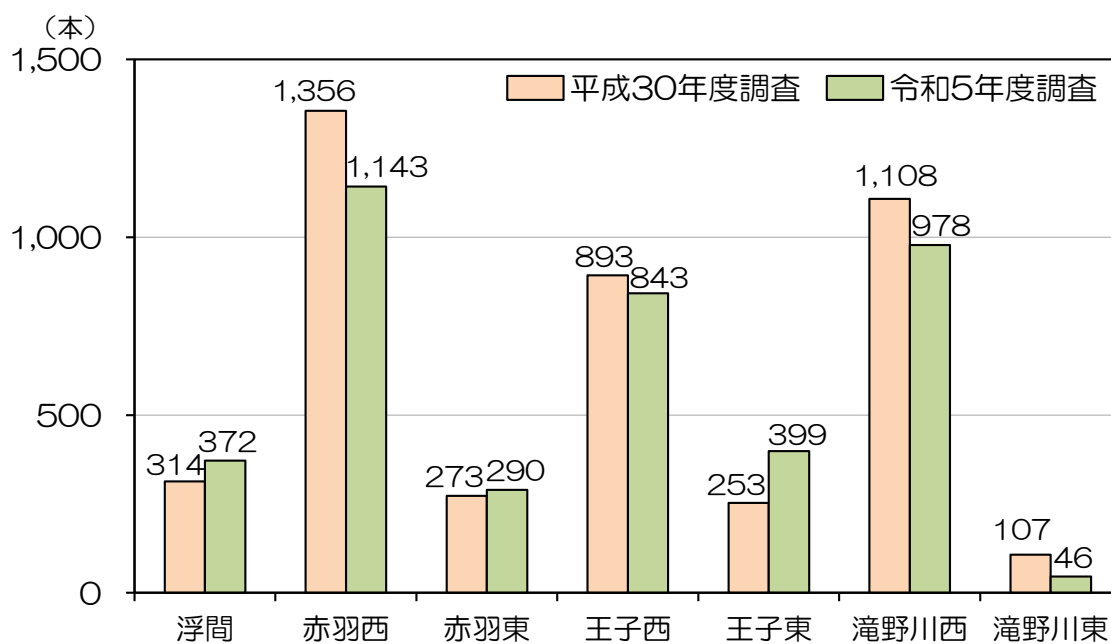


図4.2.16 地区別の大径木本数の推移

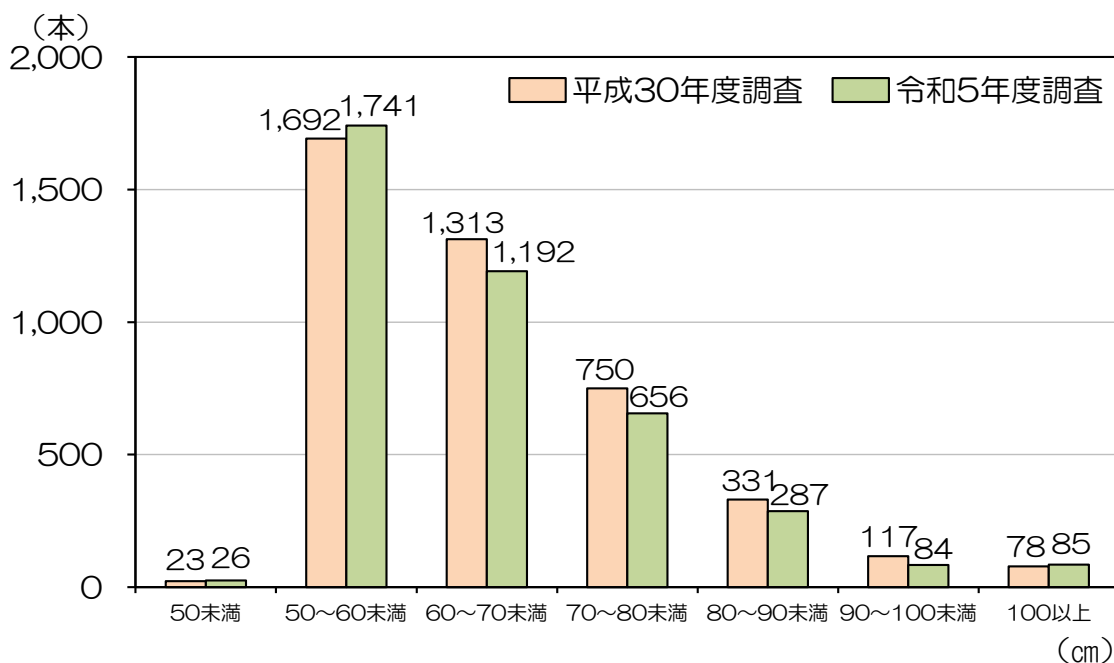


図4.2.17 直径区分別の大径木本数の推移

(ii) 樹種別・土地利用区分別の大径木の経年変化

- ・ サクラ、ケヤキ、スタジイおよびイチヨウの上位4種は減少し、上位5～7位のクスノキ、ヒマラヤスギ、エノキが微増している。特にサクラの減少は、道路、公園などでの伐採によるものである。
- ・ 公園、学校の樹木は減少し、公共施設、寺社境内では微増となっている。建て替えや病虫害対策での伐採の影響が大きい。

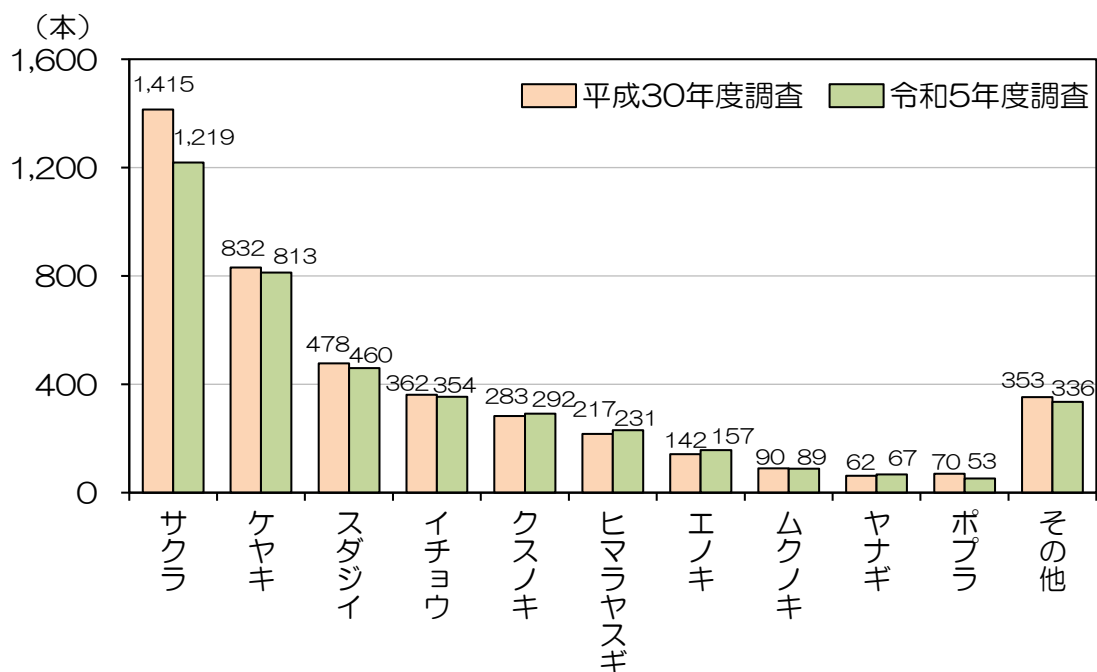


図4.2.18 樹種別の大径木本数の推移

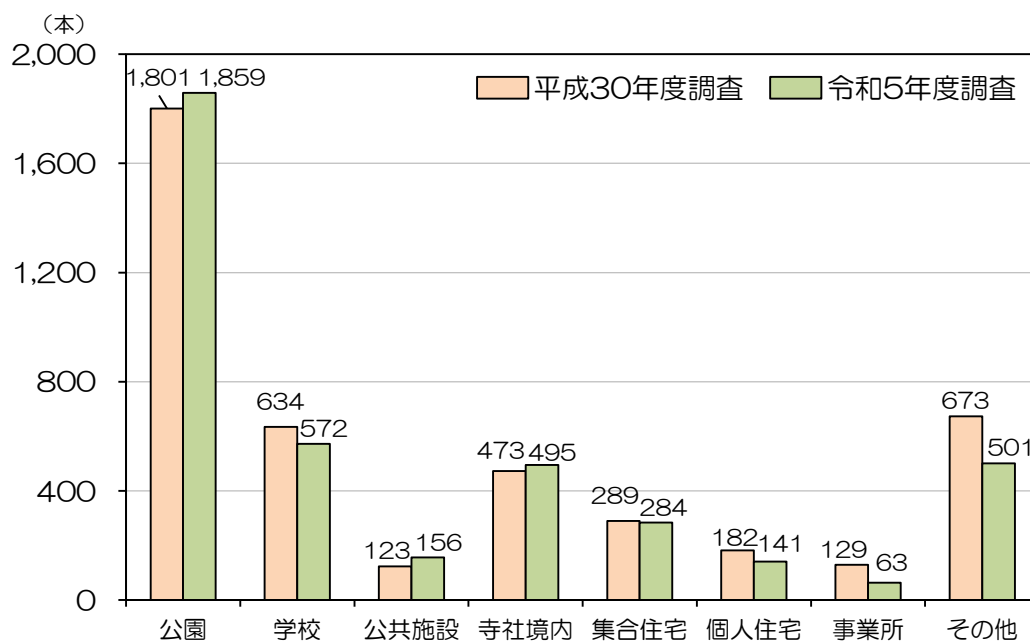


図4.2.19 土地利用区分別の大径木本数の推移

※土地利用区分についてはP.68 参照

(iii) 消失した大径木

消失した本数 654本

- ・最も多いのは伐採による消失であり、全体の約4割を占めている。
- ・建て替えや道路整備など建設行為に伴う消失も多く、全体の約3割を占めている。
- ・枯死や風倒など自然要因によるものは、2本のみである。
- ・土地利用区別では、公園が最も多く、これは、老朽化した樹木の伐採が主な理由と考えられる。

資料編P.34参照

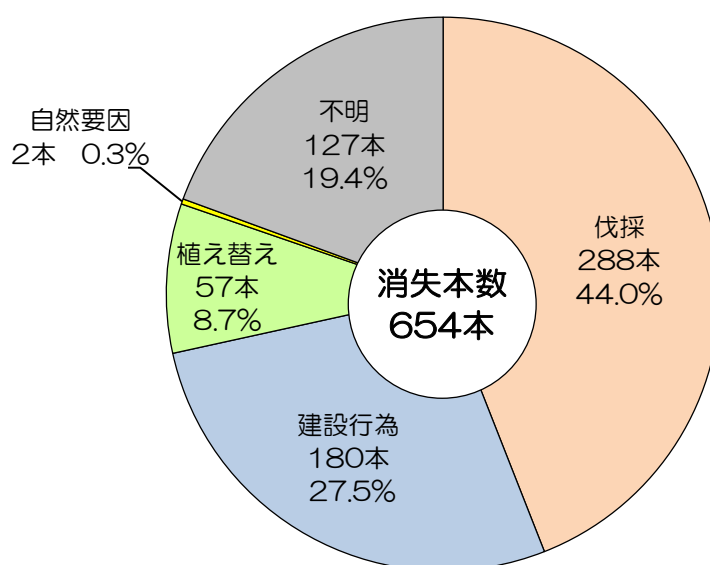


図4.2.20 消失の理由

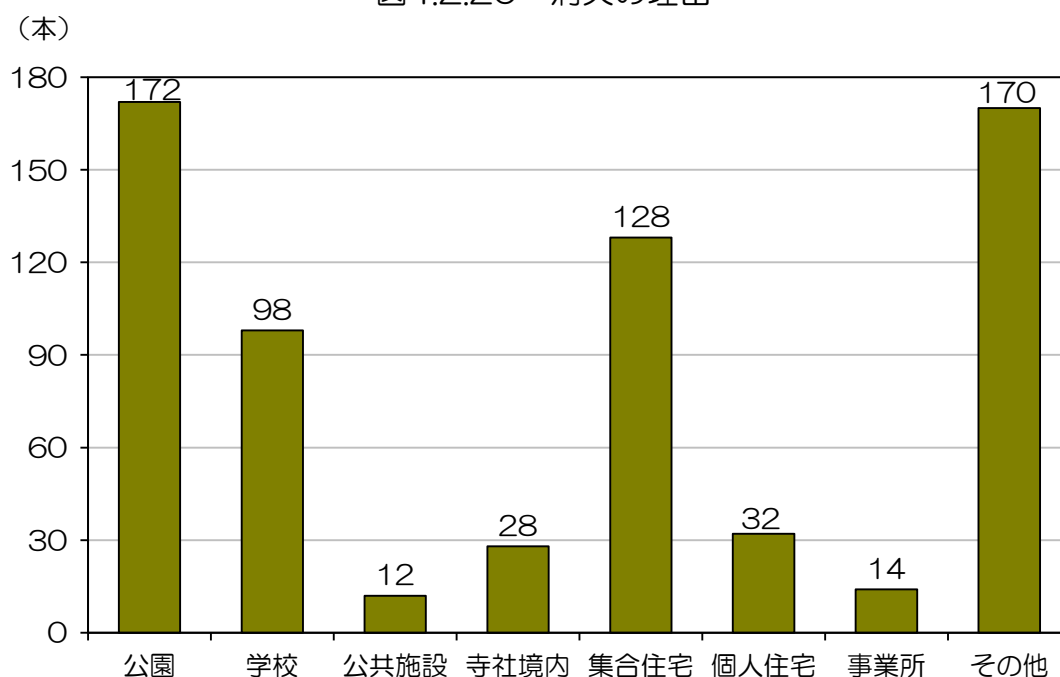


図4.2.21 土地利用区別の消失大径木



コラム

～ ソメイヨシノの危機？ ～



最近公園や街路樹で見かけるサクラにちょっとした変化が起きていることに気づいた方はいませんか？サクラと言えば多くの人が一番に思い浮かべるのはソメイヨシノでしょう。

実際、一昔前には公園や街路樹などに植えられるサクラの代表といえばソメイヨシノでした。ところが、最近公園や街路樹に新しく植えられるサクラを見ると、早咲きのカワツザクラや新種として広がりつつあるジンダイアケボノ、花のピンク色が濃いヨウコウといったソメイヨシノ以外のサクラが増えてきているのです。

一体なぜでしょう？いろいろな理由がありますが、その一つに全国的に進むソメイヨシノの樹勢衰退があるようです。

現在、福島県郡山市の開成山公園や青森県弘前市の弘前公園などでは、樹齢100年を超えるソメイヨシノを見ることができますが、通常のソメイヨシノは、およそ樹齢45年を過ぎるとその多くが腐朽病（木の枝や幹、根が腐ってしまう病気）やてんぐ巣病等に感染し、枝が折れたり、倒れてしまったりして自らの体を支えることができなくなってしまうものが多くなります。しかも、同じ時期に植えられたソメイヨシノは多少の差こそあれ、同じ時期に衰退が一斉に起こりますので、全国のお花見の名所でも年々さみしくなる場所が増えているのです。単一の樹種しかない林や緑地は、その樹種に発生しやすい病気や害虫が見つかったら全体が一斉に衰退してしまうリスクがあります。



荒川緑地のソメイヨシノ



西ヶ原みんなの公園のカワツザクラ

色々なサクラの品種が目につくようになったのは、複数の品種を混ぜることで、サクラの名所が一斉に衰退することを防止するための試みでもあります。このような樹種変換の試みも、結果的にソメイヨシノをいつまでも愛すべき品種として守っていくことに繋がるのかもしれません。

(2) 生け垣

①生け垣の定義

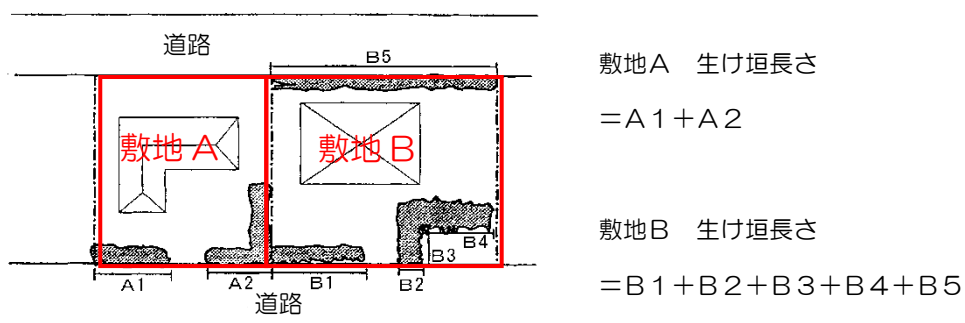
調査対象：以下の2つの条件を満たすものを調査した。

1. 長さ20m以上
2. 高さ1m以上

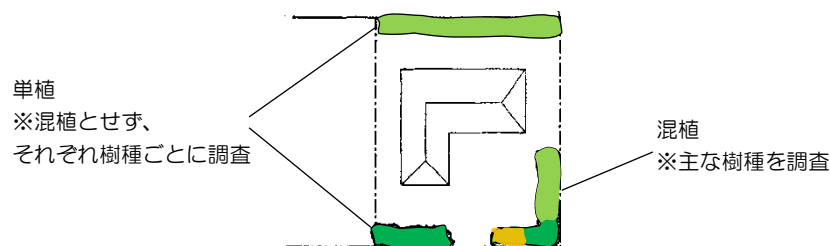


②調査方法

- ・平成30年度調査で確認された生け垣の有無
- ・箇所：敷地単位で1箇所（下図の敷地A、Bともに1箇所とした）
- ・高さ：生け垣で最も高い部分の高さ
- ・長さ：敷地内の生け垣をすべて足したもの



- ・樹種：一連の生け垣が単一の樹種で構成されているものは単植とし、複数の樹種で構成されているものは混植として区分した。混植の場合は、主な樹種を調査した。なお、一つの敷地内に樹種の異なる単植の生け垣が複数ある場合は、混植とせず樹種ごとに調査を行った。



単植の生け垣の例



混植の生け垣の例

- ・維持管理状態：以下に示す「刈り込み状況・欠損部の有無」の2項目について点数化し、それらを合計した点数を維持管理状態（総合値）とした。
一つの敷地において複数の生け垣がある場合は、各々に対して評価を行い、各項目の平均値を総合値とした。

項 目	良好（1点）	普通（2点）	不良（3点）
刈り込み状況	適正な刈込がされている	良好・ 不良以外	適正な刈込がされていない
欠損部の有無	欠損がみられない	良好・ 不良以外	欠損がみられる



適正な刈り込みがされている生け垣の例



適正な刈り込みがされていない生け垣の例



欠損がみられない生け垣の例



欠損がある生け垣の例

- ・土地利用区分：以下の種別で区分した。

土地利用区分	内容
1. 公園	公園、児童遊園、運動場、緑地
2. 学校	小・中・高等学校、大学、幼稚園、保育園
3. 公共施設	公共施設
4. 寺社境内	寺院、神社、教会、墓地
5. 集合住宅	アパート、マンション、社宅、寮
6. 個人住宅	一般住宅
7. 事業所	事務所、工場、商業用地
8. その他	河川敷、駐車場、道路（街路樹）、線路、空き地、斜面地

③調査結果

ア. 生け垣の箇所数と長さ

箇所数：466箇所
総延長：31,474m

- ・ 生け垣の多い地区は、北西部の区界や中東部、南部に多く分布している。
- ・ 生け垣の少ない地区は、住宅が密集する場所や比較的駅に近い場所が多い。
- ・ 延長の長い生け垣は、浮間、赤羽西、王子東の3地区に多く分布している。
これらの地区は、都営住宅や大型の民間集合住宅、事業所等が立地しており、敷地が広く、生け垣が設置しやすいものと考えられる。
- ・ 不燃化特区や木造住宅密集地域は生け垣が少ない。敷地の大きさから、長さ20m以上の生け垣の確保は難しいと思われる。
- ・ 新規の生け垣は集合住宅に多く見られる。今後も大型の集合住宅等への建て替えに伴い、外周緑化による生け垣が増加していくものと思われる。

※都電荒川線の生け垣は、滝野川西地区と滝野川東地区の2地区に存在しているため、それぞれの地区でカウントしている。

資料編P.35参照

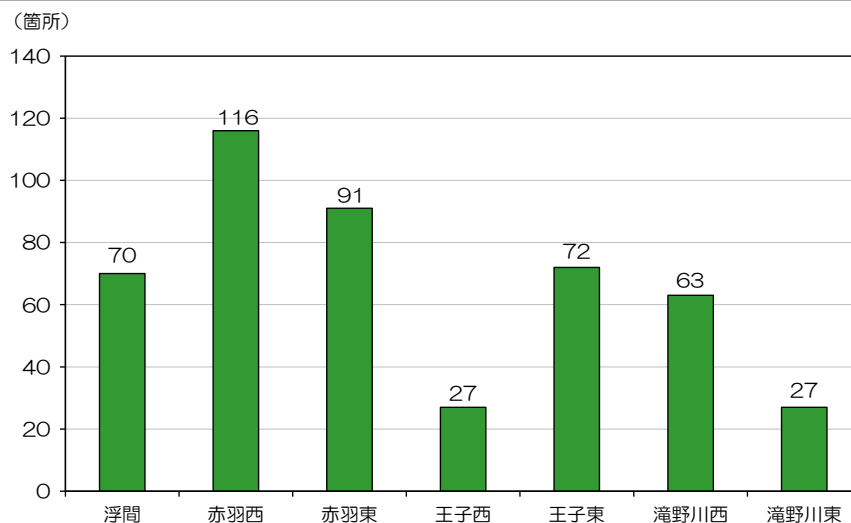


図 4.2.22 地区別の生け垣の箇所

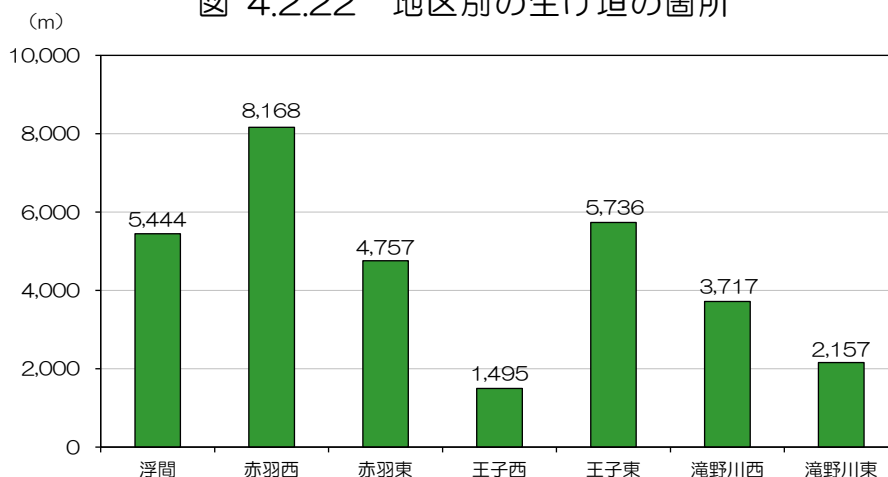


図 4.2.23 地区別の生け垣の総延長

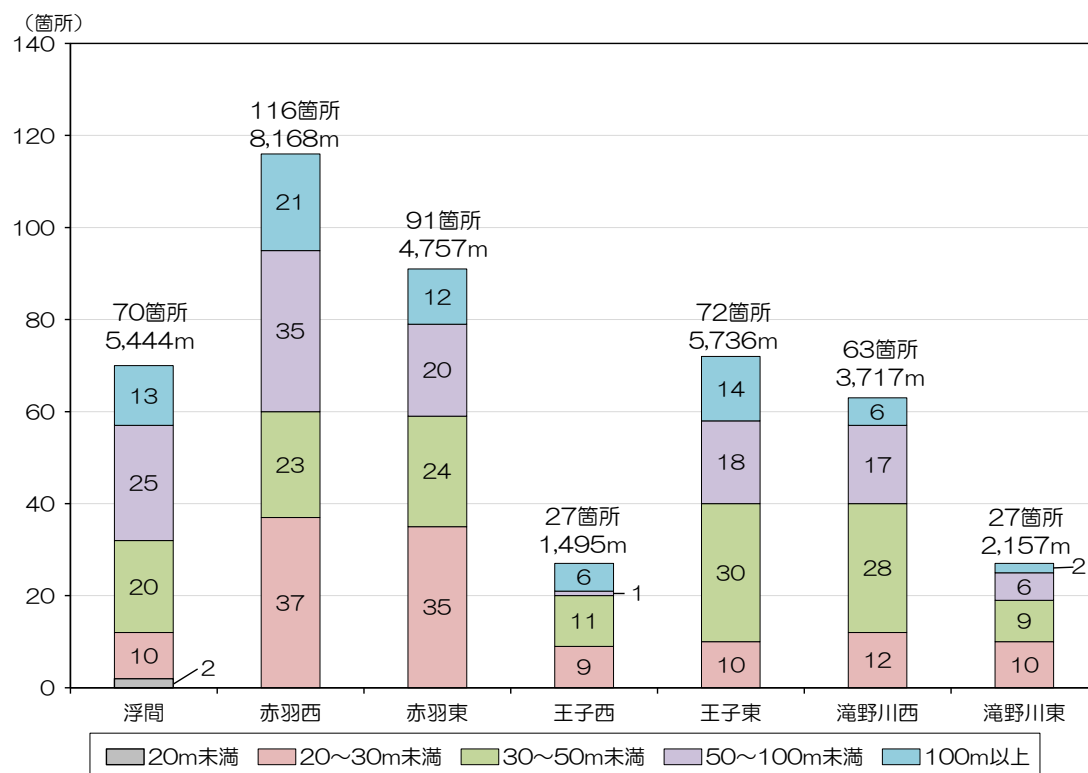


図4.2.24 地区別の生け垣の長さ区分集計

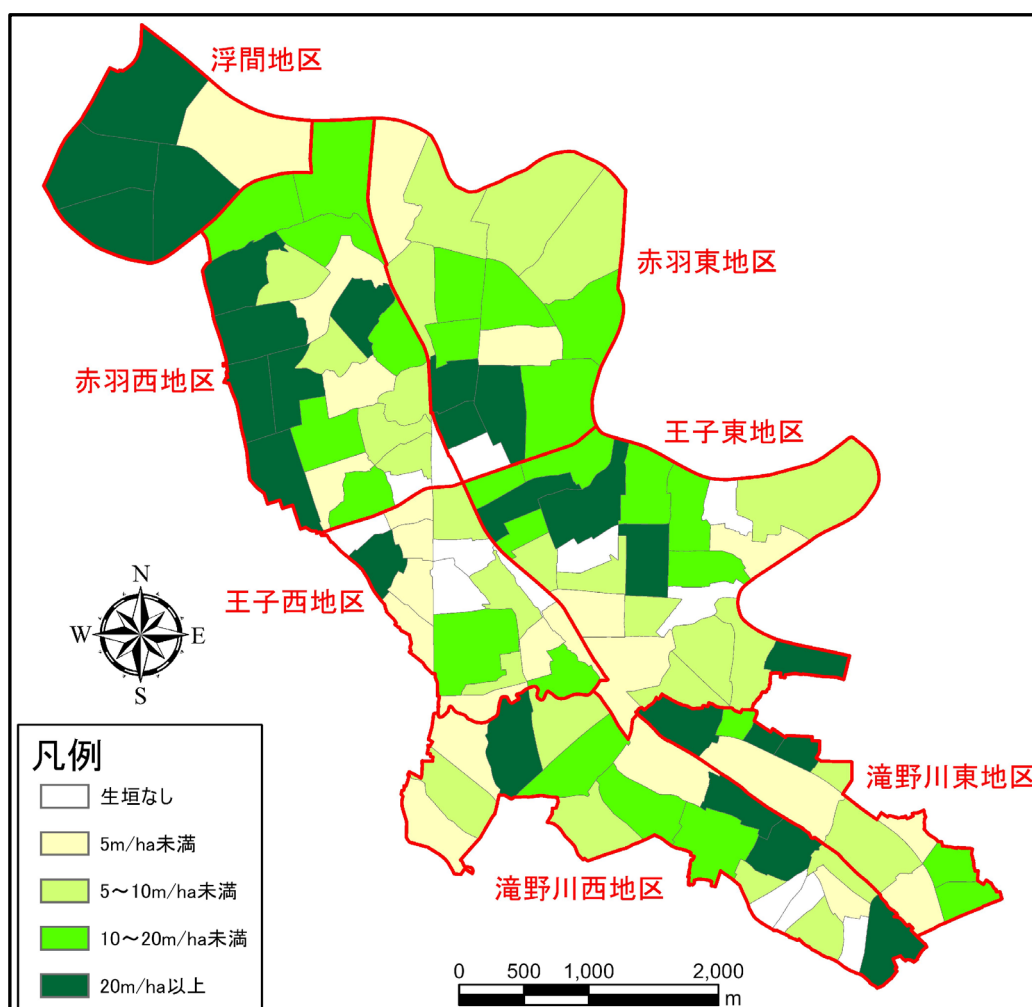
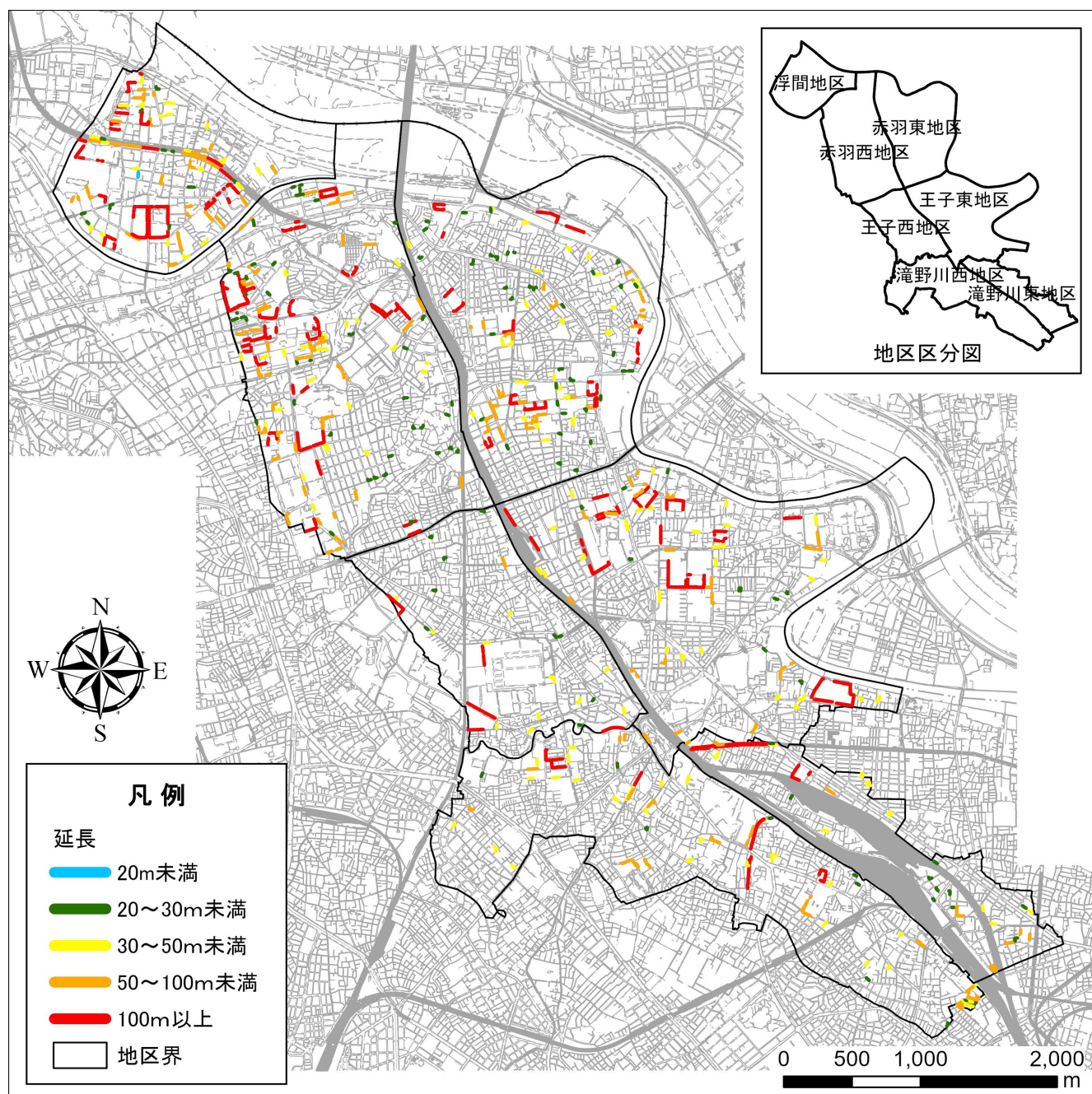


図4.2.25 町丁目別の生け垣分布状況（長さ/地区面積）



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図 4.2.26 生け垣分布図

イ. 樹種

樹種数：44種

- 単一樹種で構成された生け垣は1,082箇所であった。総延長は26,821mで、生け垣全体の85.2%を占めた。
- 平成30年度調査と同数の1,082箇所となったが、樹種数は減少し、総延長は延伸した。これは、生け垣に使用される上位3樹種の割合が高まったことで、樹種の選択が絞られつつ、延長の長い生け垣が増加しているためと考えられる。
- カナメモチ、サザンカおよびヒイラギモクセイの3種で単一樹種の生け垣全体の61.5%を占めた。また、総延長は、この3種で67.7%に達した。

※樹種の集計方法について

- 単一の樹木で構成されている生け垣のみを対象に樹種別の集計を行ったため、総延長が短くなっている。
- 一つの敷地内に単植の生け垣が複数ある場合、樹種を問わず1箇所と計数することとした。そのため、ア.における箇所数とは総数が異なっている。

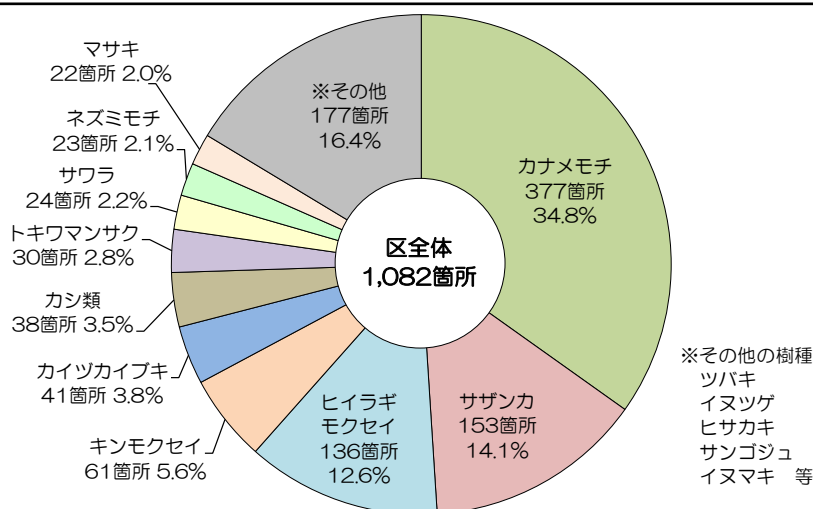


図4.2.27 単一樹木による生け垣の樹種別の箇所数と割合

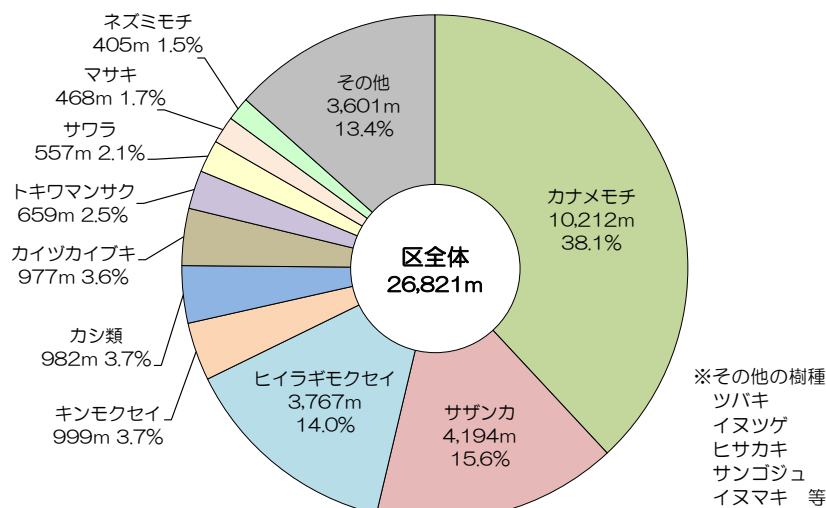


図4.2.28 単一樹木による生け垣の樹種別の長さとの割合

ウ. 維持管理状態

(1) 刈り込み状況

- ・ 9割以上の生け垣は、適正に刈り込まれている。
- ・ 個人住宅では「良好」な生け垣の割合が、他よりも高い。これは、住人により、適正な維持管理が図られているためと考えられる。

(2) 欠損部の有無

- ・ 欠損のない「良好」な生け垣が約3割を占めている。これは、刈り込み状況と同様に、生け垣設置数の多い集合住宅や個人住宅で適正な維持管理が図られているほか、土地条件に適した樹種選定が行われた結果と考えられる。

(3) 総合値

- ・ 生け垣設置数の多い集合住宅や個人住宅で「良好」な生け垣が多かったことは、区内の生け垣の維持管理意識の高さをうかがえるものである。
- ・ 今後は、集合住宅の建て替えに伴う良好な生け垣の増加が期待される。

※集計方法

- ・ 一つの敷地において複数の生け垣がある場合は、刈り込み状況・欠損部の有無ともに敷地ごとに評価の平均値を計数した。総合値はこれらの合計値とした。
- ・ 土地利用区分が異なる敷地にまたがっている生け垣を別々に計数しているため、ア.における箇所数よりも多くなっている。

資料編P.35参照

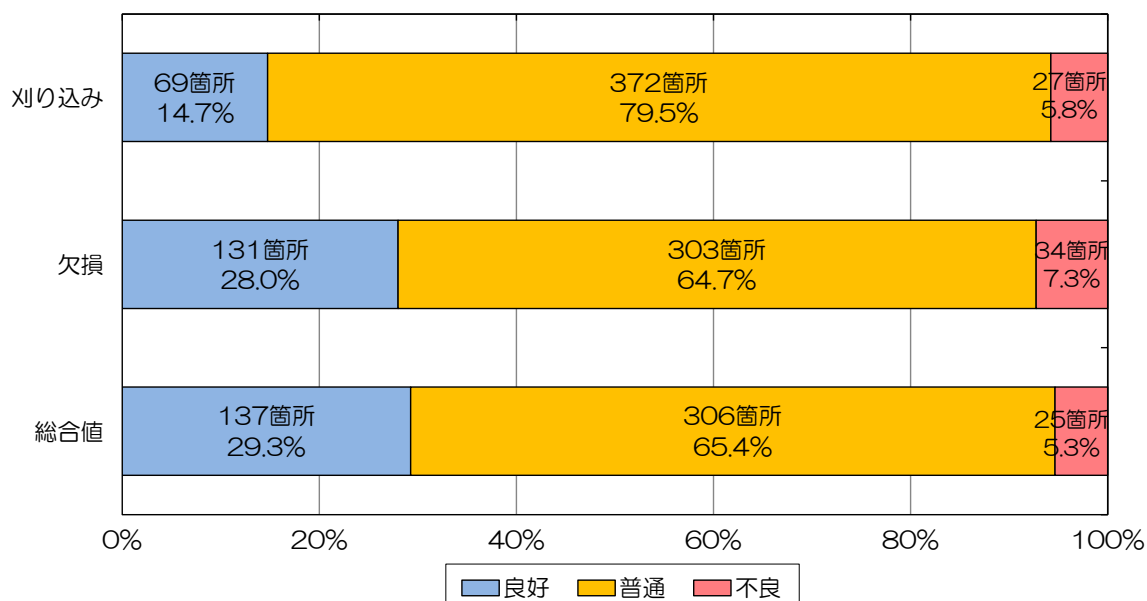


図4.2.29 維持管理状態調査の結果

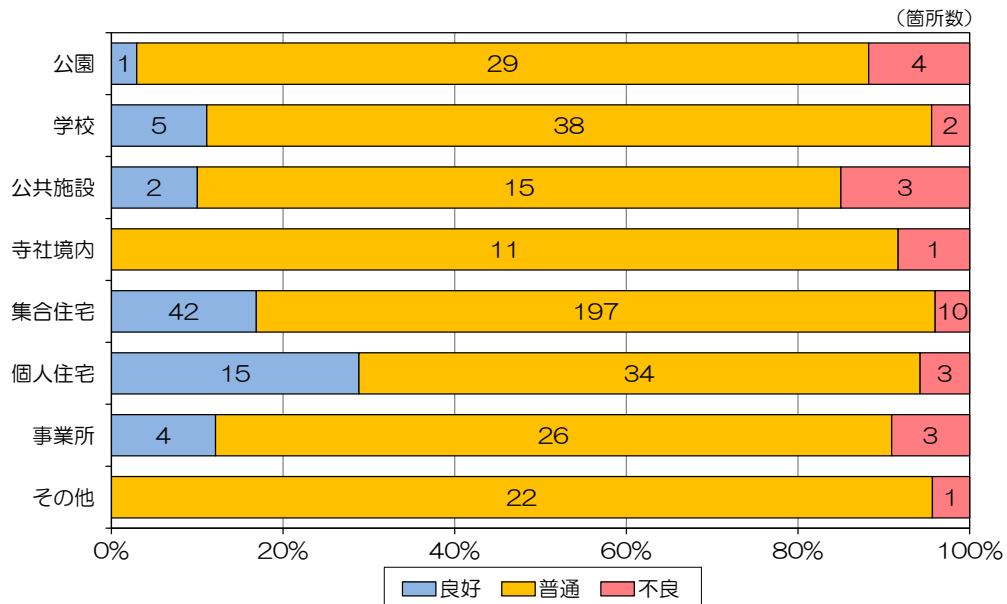


図4.2.30 土地利用別の刈り込み状況の割合

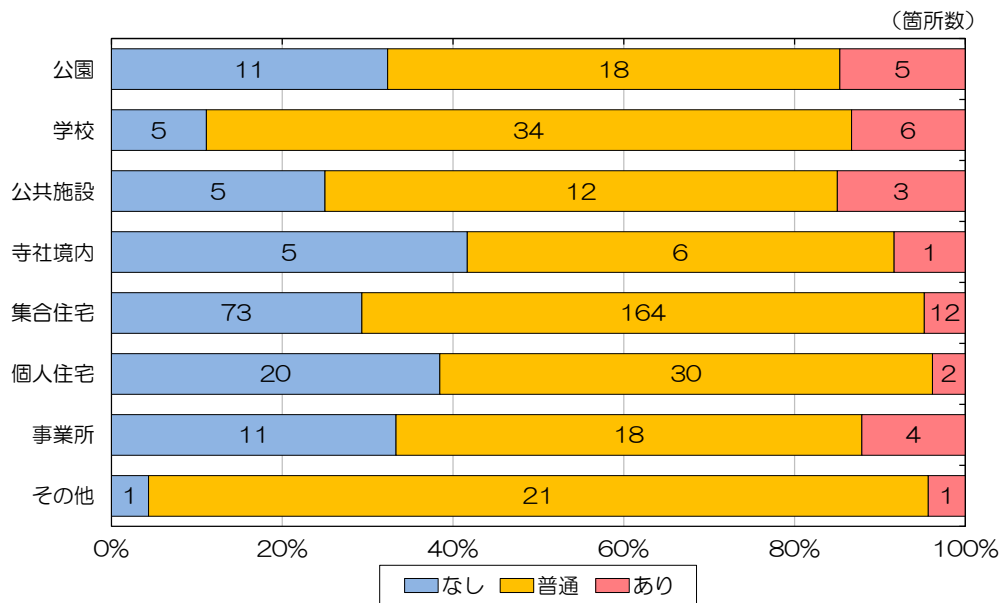


図4.2.31 土地利用別の欠損部の有無の割合

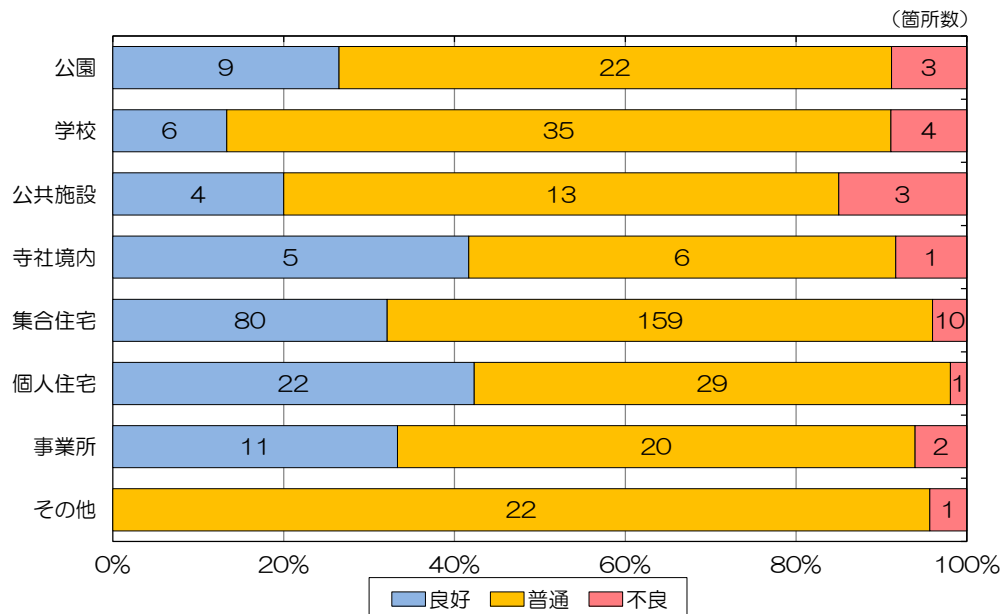


図4.2.32 土地利用別の総合値の割合

工. 土地利用区分

- ・都営住宅やURの団地などの集合住宅で多くの生け垣整備が行われており、箇所数、長さともに割合が最も高い。
- ・学校の生け垣は、箇所数の約1/3が100m以上となっており、比較的大規模な生け垣が整備されている。
- ・寺社境内は生け垣の箇所数、総延長ともに割合が最も低かった。

資料編P.36参照

※集計方法

- ・土地利用区分が異なる敷地にまたがっている生け垣を別々に計数しているため、ア. における箇所数よりも多くなっている。

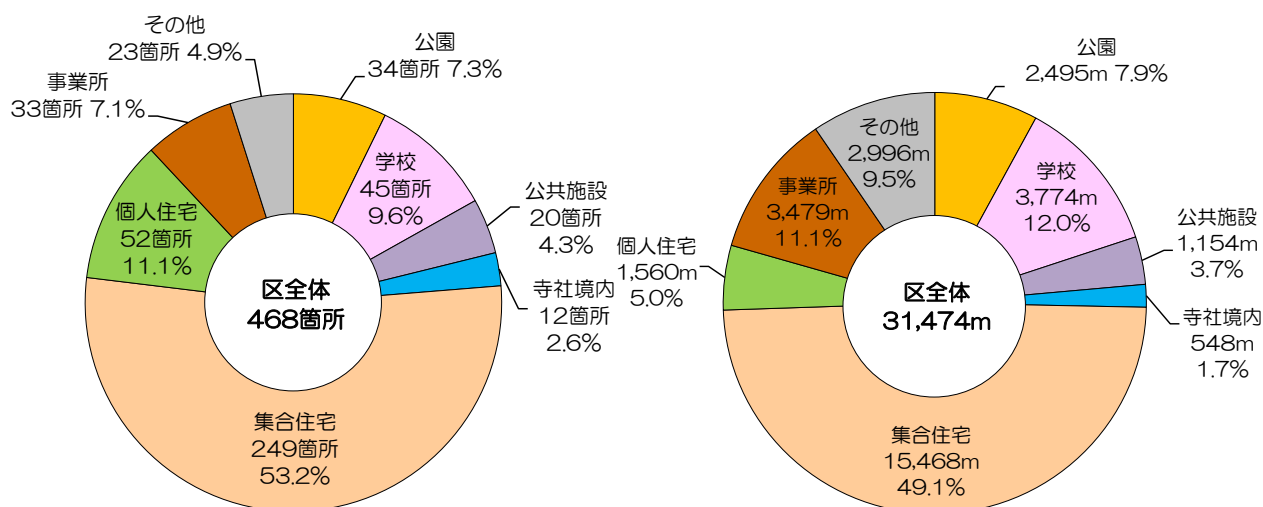


図4.2.33土地利用区別の生け垣箇所

図4.2.34土地利用区別の生け垣長さ

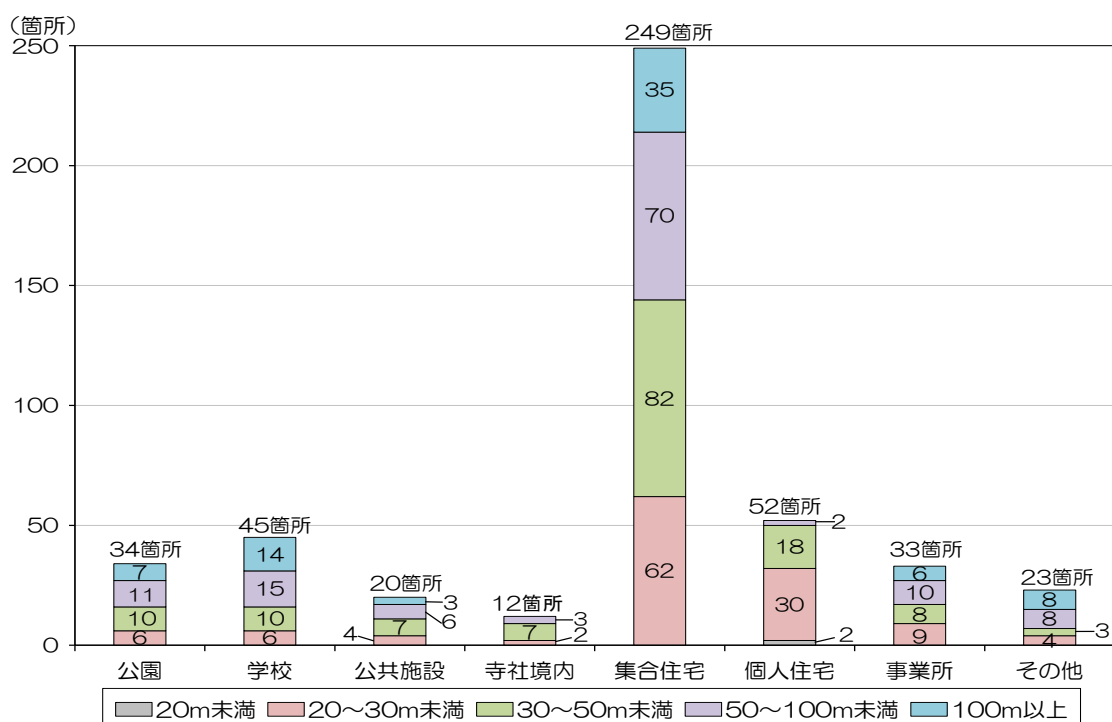
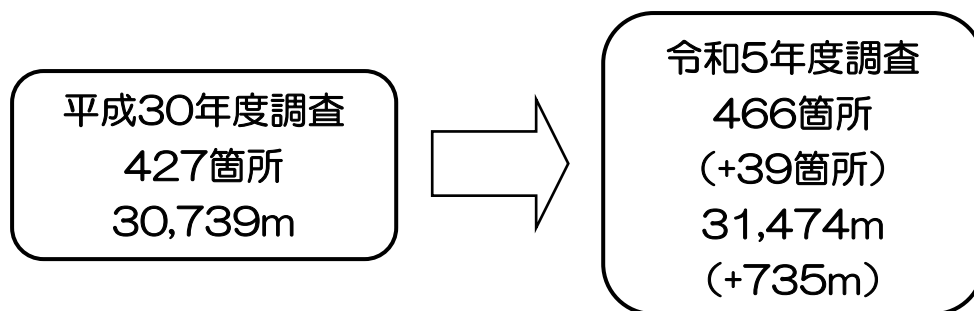


図4.2.35 土地利用区別の長さ区分別生け垣箇所数

才. 経年変化



- ・ 1箇所あたりの平均延長は、平成30年度の72.0mに対し、令和5年度は67.5mへ縮小した。
- ・ 赤羽東地区は、4箇所増加しているものの、総延長では49m縮小し、生け垣の小規模化が進んでいる。
- ・ 今回、新たに確認された生け垣は、集合住宅や学校が多かった。なお、公園や個人住宅、寺社境内では新たに確認された生け垣はなかった。
- ・ 消失した生け垣は伐木によるものが多かった。それ以外では、強剪定による高さ不足、間伐による生け垣の消失など、樹木の生長、回復によっては生け垣に戻る余地のあるものも含まれる。

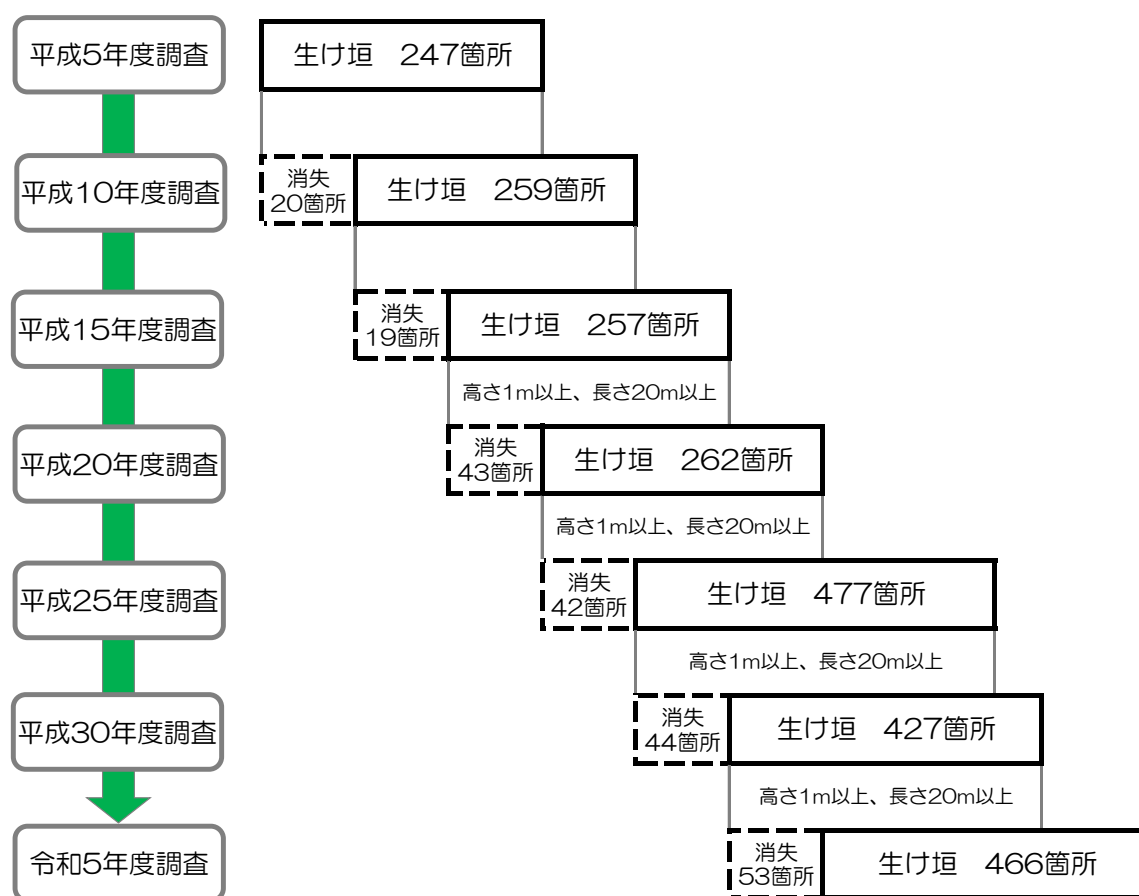


図4.2.36 生け垣の調査結果の推移

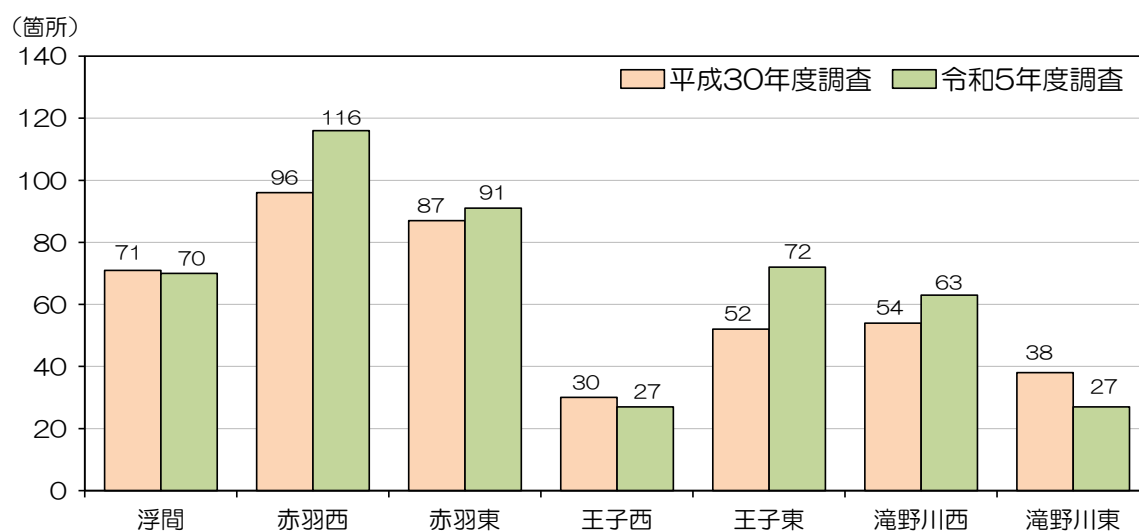


図4.2.37 地区別の生け垣の箇所数の推移

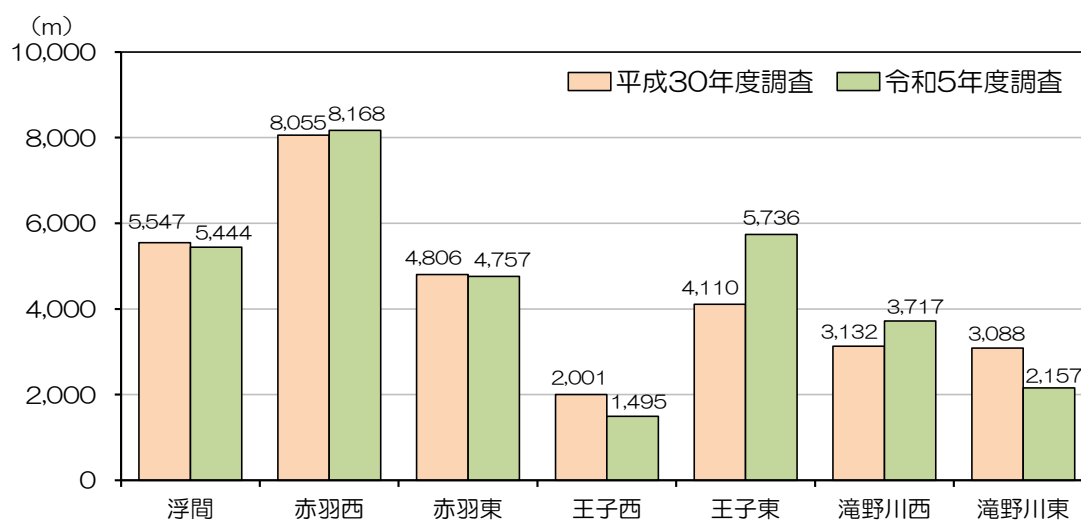


図4.2.38 地区別の生け垣の総延長の推移

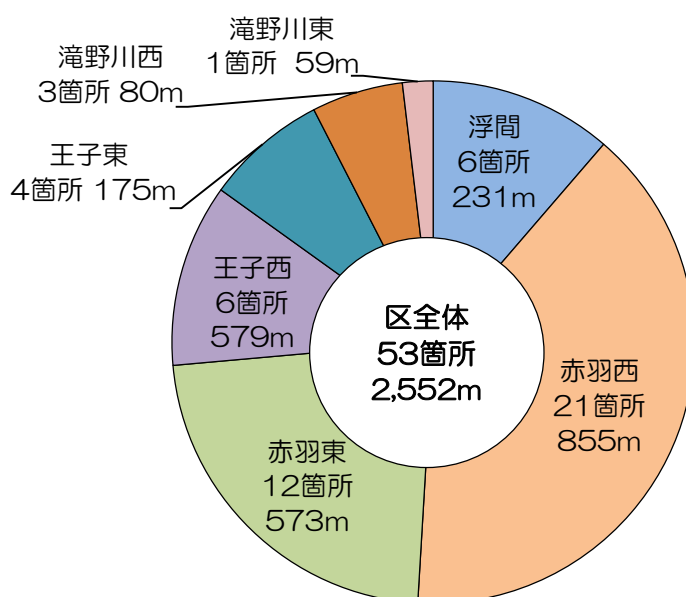


図4.2.39 地区別の生け垣の消失箇所と延長

(3) 生け垣余地

①生け垣余地の定義

延長20m以上の生け垣が設置可能な場所とした。

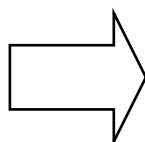
②調査方法

北区都市整備情報システム令和3年度土地利用データおよび、本調査の結果を基に、以下の4つの条件を満たした場所を抽出した。

- ・既存の生け垣が設置されていない
- ・樹木に覆われていない
- ・道路に面している
- ・20m以上連続している

③調査結果

平成30年度調査
箇所数：3,870 箇所
総延長：128,095m
敷地数：2,286 箇所



令和5年度調査
箇所数：3,640 箇所
 (-230 箇所)
総延長：119,687m
 (-8,408m)
敷地数：2,172 箇所
 (-114 箇所)

- ・「100m以上」の生け垣余地があるのは55箇所、王子東地区、赤羽西地区、赤羽東地区に多く分布している。
- ・生け垣余地が減少した主な理由としては、赤羽西地区、滝野川東地区等における都営住宅の建て替えのほか、滝野川西地区の公務員宿舎跡地への民間マンションの建設、赤羽東地区の商業施設の建て替えなどが考えられる。

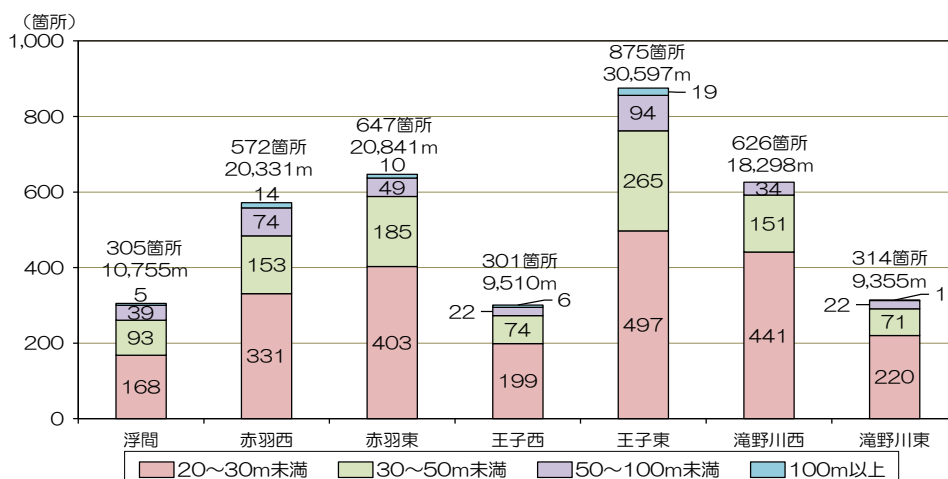


図4.2.40 地区別の生け垣設置可能余地の長さ区分別箇所数



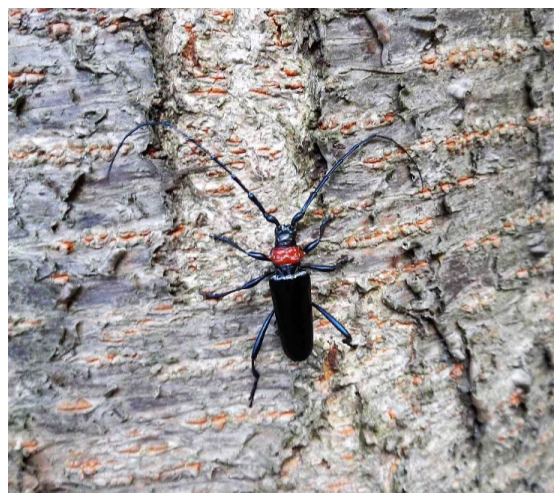
コラム ～病害虫が大移動、樹木は大迷惑～



日本中どこへ行くにも1日かからない、そんな便利な世の中です。でも、樹木にとっては大迷惑というお話です。

樹木が枯れる要因の中には、病気にかかったり、昆虫に食い荒らされるといったものがあります。樹木の病気の中にも昆虫が病原菌を媒介して、樹木に伝染するものも多くあります。昆虫は、樹木にとって、有益なものもありますが、有害になるものも多く存在します。実は今、昆虫や、昆虫が運ぶ樹木の病原菌も、私たち人間と同様に、船や車、電車などで遠距離を短時間のうちに移動しているのです。

マツノザイセンチュウ（松くい虫）
病の媒介昆虫であるマツノマダラカミキリ、最近サクラの集団枯死で世間を騒がせているクビアカツヤカミキリ、色々な樹木を枯らしているツヤハダゴマダラカミキリ等、これらの昆虫たちは、全て元々日本にはいなかった、いわゆる外来生物です。主に物資の輸入等の際に、荷物や荷物を運ぶパレットに紛れて日本に入り込んだと考えられている虫たちです。日本に入ったこれらの昆虫は、パレットや物資の隙間に隠れて、トラックや電車で移動し、各地の樹木に被害をもたらしています。



クビアカツヤカミキリ

提供：埼玉県環境科学国際センター

通常、大型のカミキリムシ類等では、自分で飛んで移動できるのは1日に数キロ程度ですが、車や電車に乗って1日に数十キロから数百キロと移動してしまうと、一昔前とは比べものにならない速さで被害が拡大していきます。そのため防除が追いつかず、被害規模も大きくなる傾向があるようです。人間はそんなつもりで道路や鉄道を造った訳ではないのですが、電車や車に乗って逃げることのできない樹木にとっては、理不尽この上ないことでしょう。

こうした昆虫の被害や病気にかかってしまった樹木は、残念なことに、人が気づいた時には、既に回復が難しい状況であることも少なくありません。こうした病害虫の蔓延速度の早まりに対抗するためには、監視の目を増やして、早期発見をすることが肝心です。

(4) 壁面緑化

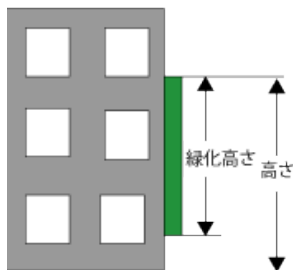
①壁面緑化の定義

道路に面しており、10㎡以上の面積があるものとした。

②調査方法

- ・高さ：地上から壁面緑化の上端の高さを目視にて0.5m単位で計測
- ・緑化面積：「緑化の高さ×幅」を計算して算出

緑化の高さ＝壁面緑化の上端から下端までの高さの差



- ・樹種：対象壁面緑化が1種の場合は「単植」、複数の場合は「混植」、樹木ではない草花等が植えられている場合は「草花」とし、これらの緑化に用いられている植物種を特定した。

- ・維持管理状態：以下の表のように良好・普通・不良の3段階で評価した。

良好（1点）	普通（2点）	不良（3点）
よく管理されている	適度に管理されている	管理されていない

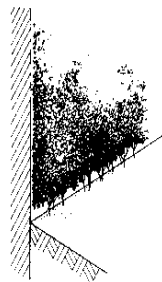
- ・土地利用区分：以下の種別で区分した。

土地利用区分	内容
1. 公園	公園、児童遊園、運動場、緑地
2. 学校	小・中・高等学校、大学、幼稚園、保育園
3. 公共施設	公共施設
4. 寺社境内	寺院、神社、教会、墓地
5. 集合住宅	アパート、マンション、社宅、寮
6. 個人住宅	一般住宅
7. 事業所	事務所、工場、商業用地
8. その他	河川敷、駐車場、道路（街路樹）、線路、空き地、斜面地

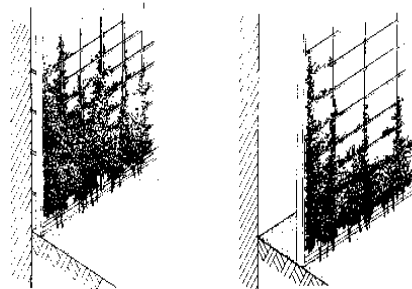
※土地利用区分については、P.5の土地利用現況データに基づき、壁面緑化が設置されている敷地の区分を付与した。

- ・タイプ：以下のタイプに応じて区分を行った。

A. 壁面を登るもの



A-1 壁面を直接登るもの

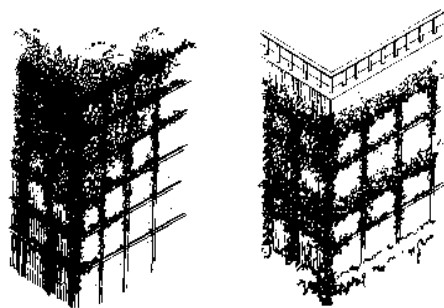


A-2 フェンス等に沿わせて壁面を登るもの

B. 壁面を下るもの

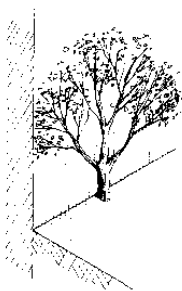


B-1 壁面を直接下るもの

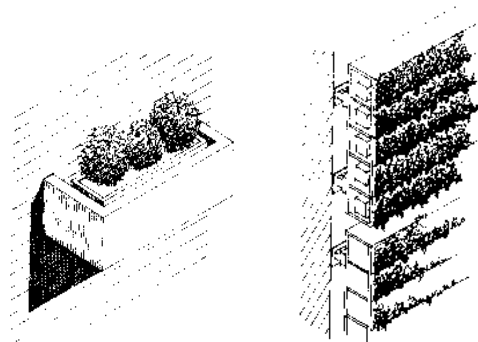


B-2 フェンス等に沿わせて壁面を下るもの

C. 壁面に沿って樹木を配置するもの、プランター等で壁面の大部分を緑化するもの



C-1 壁面に沿って樹木を配置するもの



C-2 プランター等を設置するもの

③調査結果

ア. 箇所数および総面積

箇所数：75箇所
総面積：4,547㎡

- ・ 区内の壁面緑化は、区西部に29箇所、区東部に46箇所と、区東部に多く分布している。
- ・ 壁面緑化の75箇所は、「25㎡未満」、「25～50㎡未満」といった小規模なものが7割以上を占めている。これは、個人住宅と事業所の壁面緑化数が多いことに起因するもので、個人住宅では、敷地面積との関係から小規模に限定される場合が多いこと、事業所では、スーパーや工場の建物全体ではなく、建物の一部での壁面緑化が多いことが挙げられる。
- ・ 壁面緑化の面積で約6割を占める「100㎡以上」は、体育館、病院、スーパー、工場等に集中した。
- ・ 施設別にみると、志茂三丁目の赤羽体育館が600㎡（ヘデラ）で最も大きく、次いで、西が丘三丁目の国立スポーツ科学センターの355㎡（ヘデラ、カズラ）であった。単植、混植の違いはあるものの、ヘデラは日陰でも育ち、長いツルを伸ばすこと、耐暑性・耐寒性ともに優れていること等の特性があり、大規模な壁面緑化に用いられやすいと考えられる。

資料編P.37参照

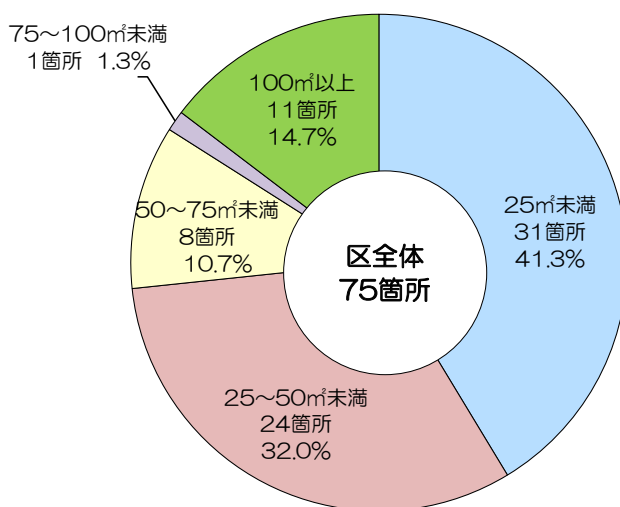


図4.2.41 規模別壁面緑化の箇所数

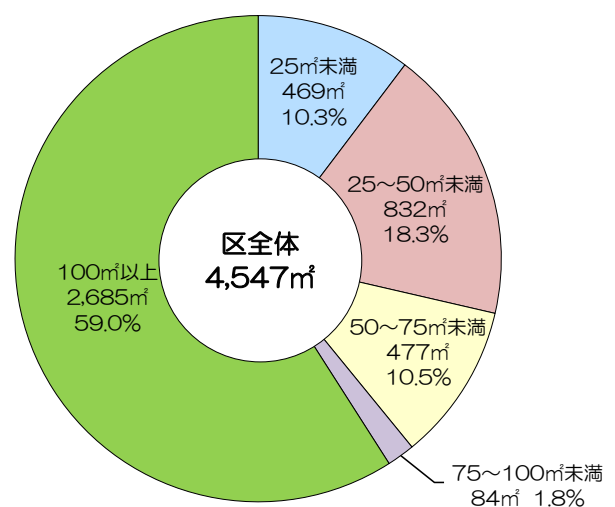
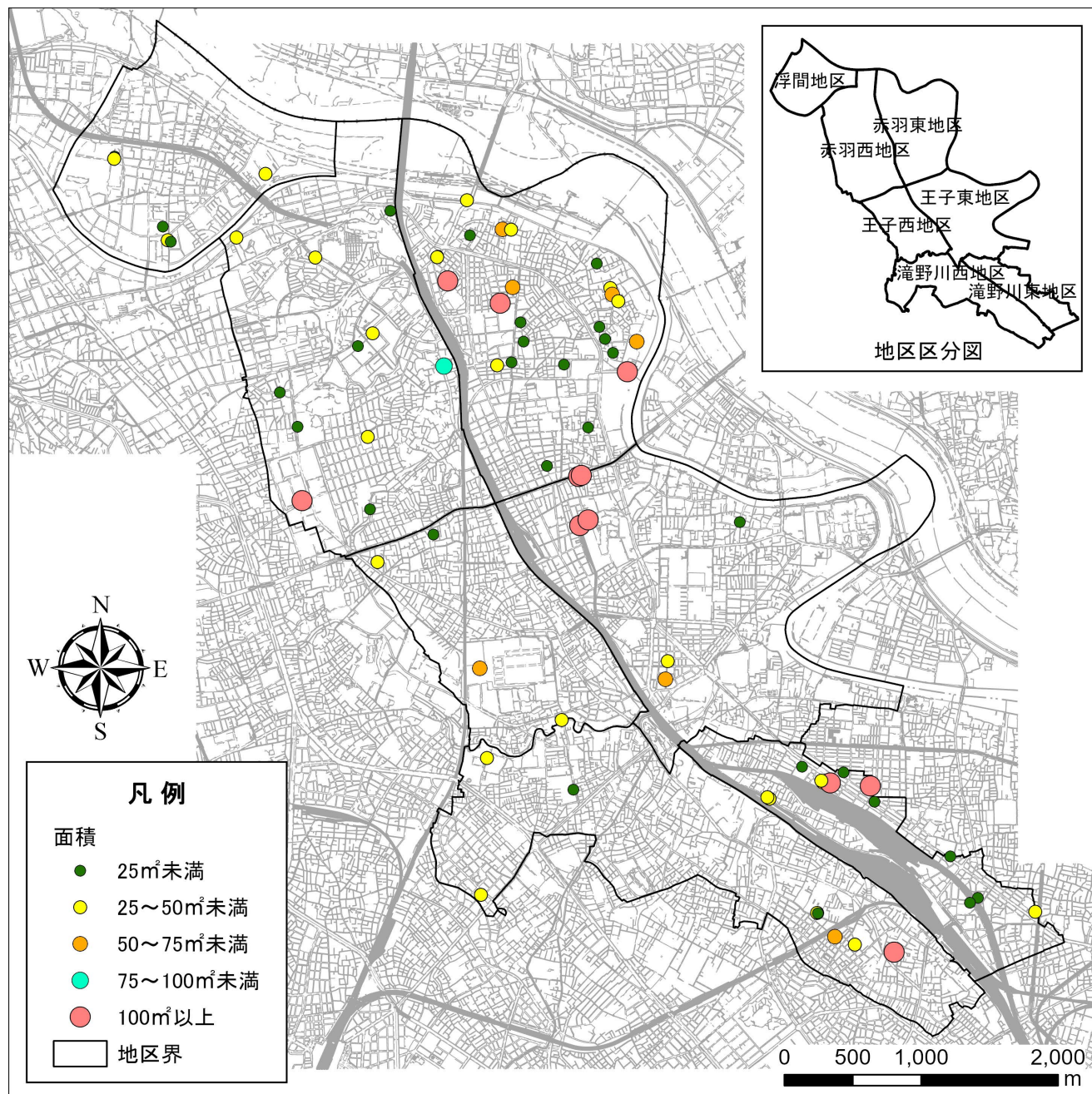


図 4.2.42 規模別壁面緑化の総面積



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。

(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図 4.2.43 壁面緑化分布図

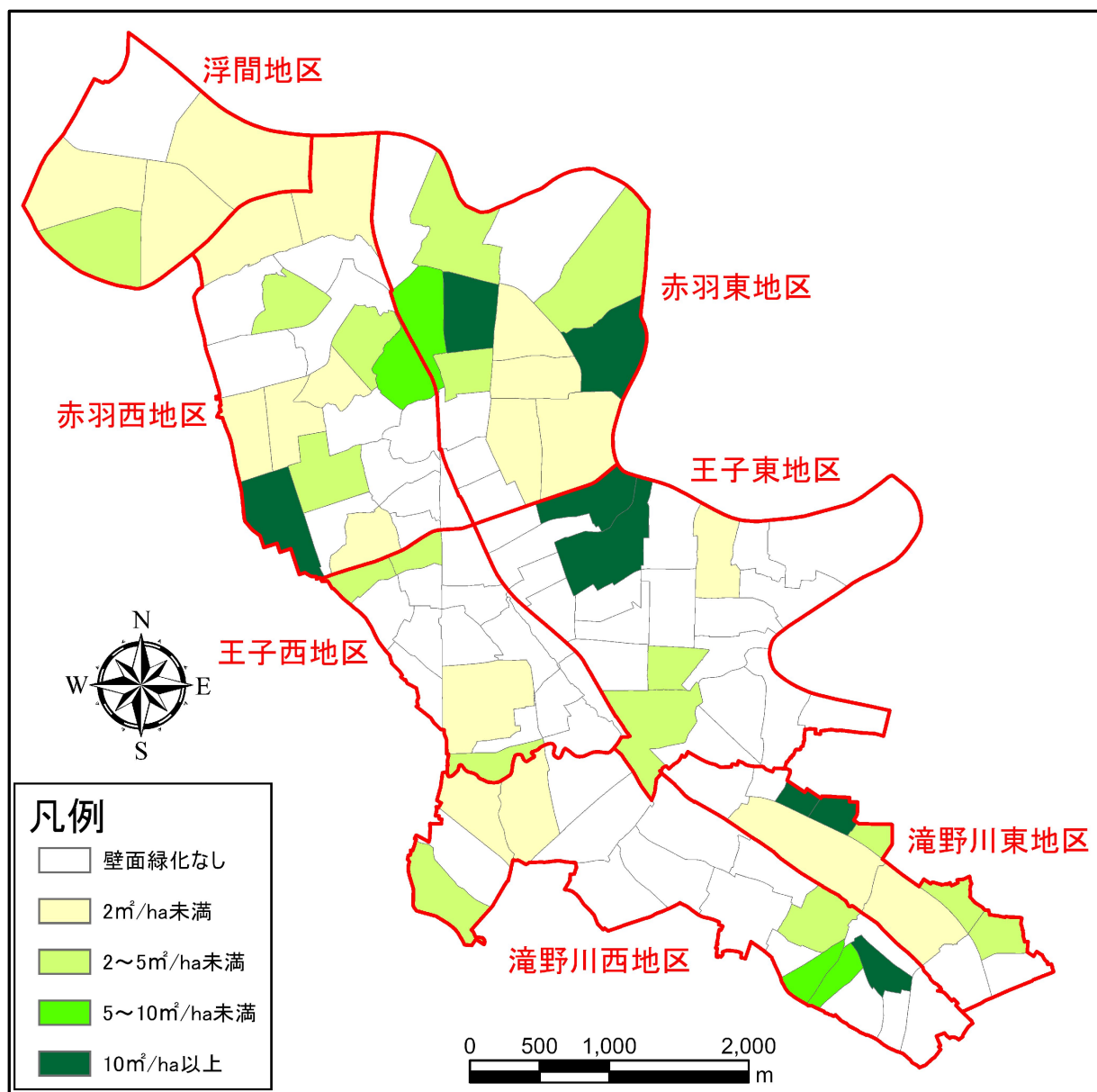


図4.2.44 壁面緑化の面積密度分布

イ. 地区別の壁面緑化状況

- ・ 箇所数が最も多かった赤羽東地区（26箇所）では、個人住宅が15箇所を占めている。また、事業所での壁面緑化も多く、商工業的な土地利用も影響しているものと考えられる。
- ・ 赤羽東地区は壁面緑化面積も最も大きく（1,520㎡）、そのうち、600㎡は区内最大の壁面緑化面積の赤羽体育館である。
- ・ 王子東地区は、100㎡以上の壁面緑化の割合が高い。これは、王子五丁目の事業所と神谷一丁目の病院の2施設によるものである。
- ・ 浮間地区の壁面緑化は、6箇所すべてが50㎡未満である。これは、既存の浮間水再生センター以外は新規の壁面緑化であるため、今後、樹木の生長によって規模が拡大していくものと考えられる。

資料編P.37参照

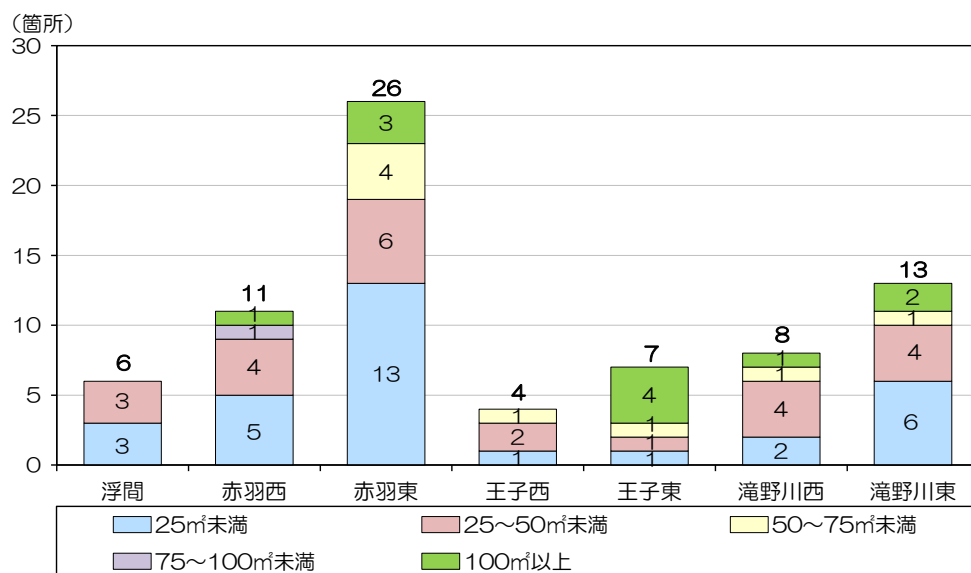


図4.2.45 地区別・規模別の箇所数

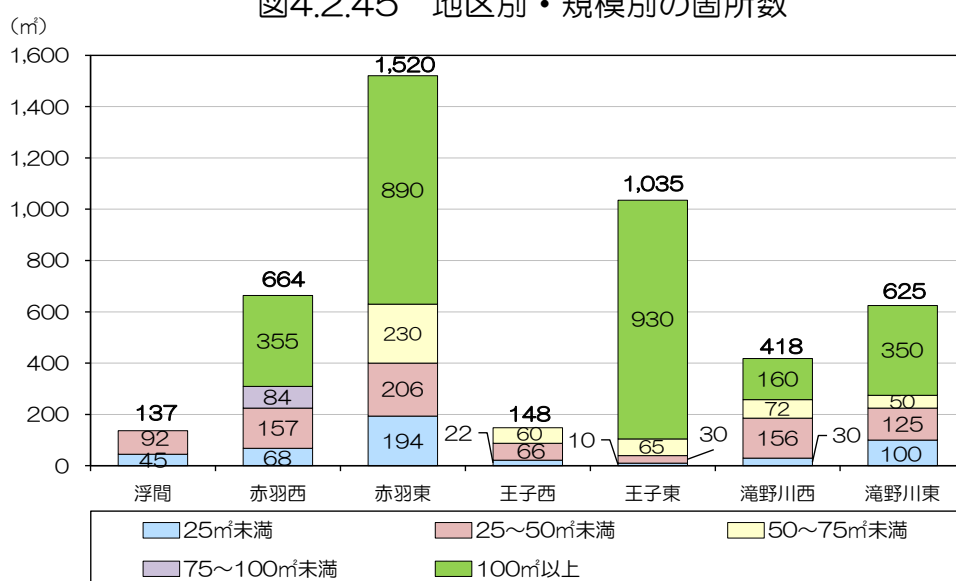


図4.2.46 地区別・規模別の合計面積

ウ. タイプ

- 壁面を直接登る「A-1」が62.7%で最も多く、次いでフェンス等に沿わせて壁面を登る「A-2」が25.3%であった。この2タイプで、全体の約9割を占めている。地植えでメンテナンスが容易なタイプが好まれていると考えられる。
- 壁面緑化数の多くを占める個人住宅は、「A-1」25箇所、「B-1」2箇所、「A-2」1箇所であった。

※タイプの区分は、P.101参照

資料編P.37～38参照

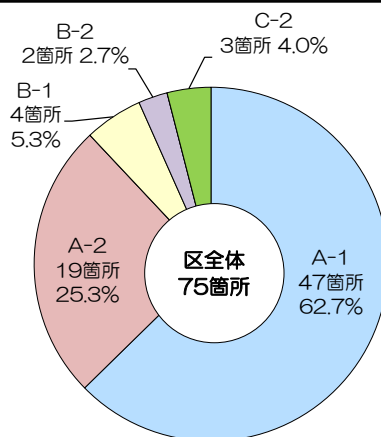


図4.2.47 タイプ別の箇所数と割合



図4.2.48 タイプ別の壁面緑化の具体例

工. 樹種

- ・単植の壁面緑化は68箇所、7科9種類の植物が確認できた。
- ・混植は7箇所、全体の約1割を占めるにとどまった。
- ・ツタ、キツタの2種で約5割を占めた。
- ・壁面緑化面積の上位3施設に用いられているヘデラは、1割程度であるものの、混植の7箇所のうち、4箇所で用いられている。

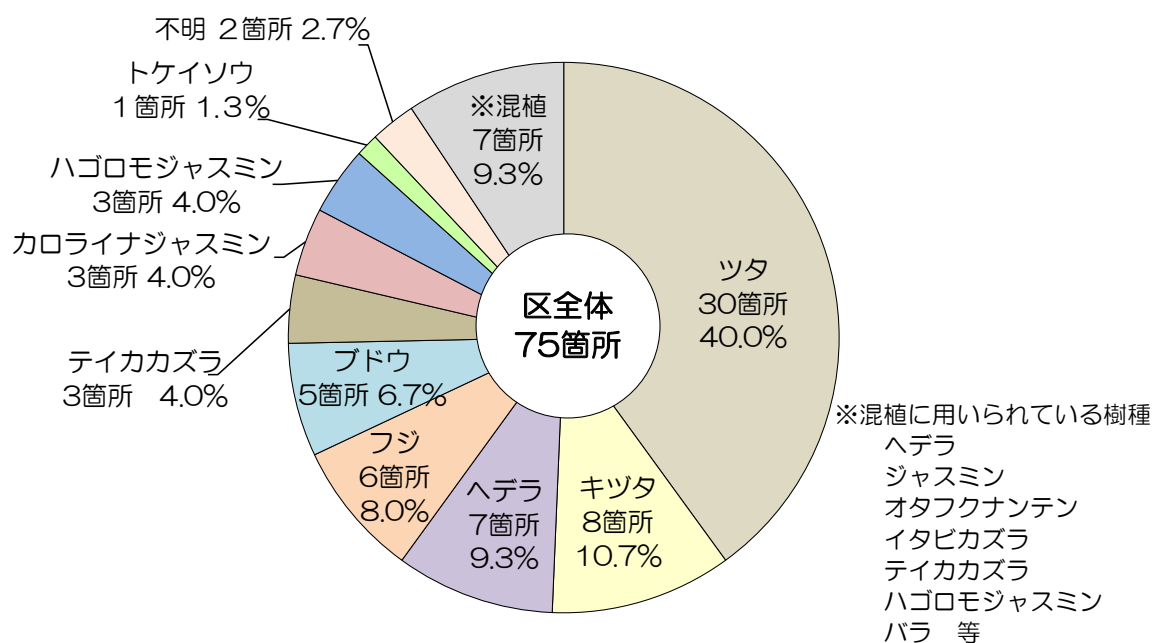


図4.2.49 樹種別の箇所数と割合



図4.2.50 ヘデラ（単植）による壁面緑化の例（赤羽体育館）

オ. 維持管理状態

- 壁面緑化の9割以上が適正に維持管理されていると考えられる。
- 維持管理状態で「不良」と判定されたのは、3箇所であった。樹種、タイプは異なるが、成長が遅く壁面を登っていない、樹勢が落ちている、ほとんどが枯れているという症状が確認されており、今後の適正な維持管理が求められる。
- 壁面緑化で最も数の多い個人住宅では、「不良」と判定された壁面緑化がなかったことから、住人による適正な維持管理が図られているものと考えられる。

資料編P.38参照

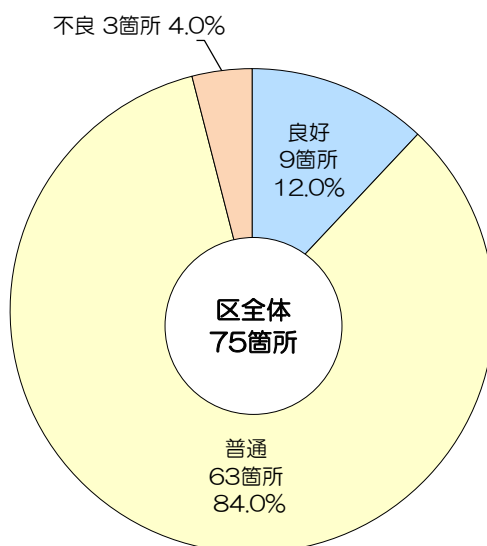


図4.2.51 維持管理状態の割合

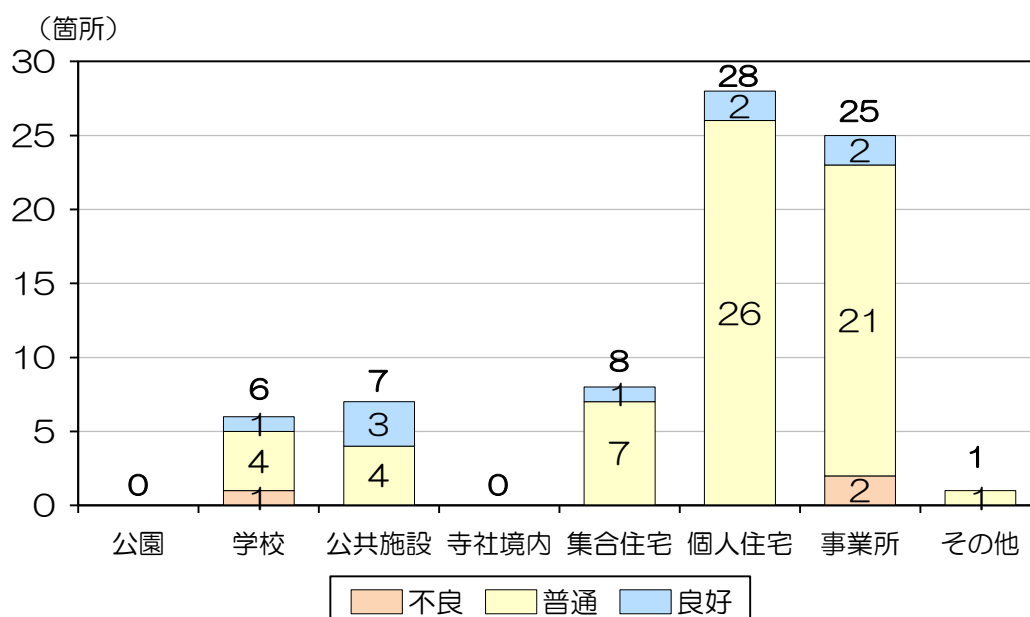


図4.2.52 建物用途別の維持管理状態の割合

カ. 土地利用区分

- ・ 箇所数が最も多いのは個人住宅であるが、1箇所あたりの平均面積は33.0㎡と小規模であった。
- ・ 合計面積が最も大きいのは事業所の1,523㎡であった。これは、スーパーや工場といった200㎡を超える大型の壁面緑化の3箇所が含まれているためである。
- ・ 平均面積が最も大きいのは公共施設の211.4㎡であった。公共施設の全7施設のなかに、壁面緑化面積の上位3施設が入っており、公共施設では大規模な壁面緑化が行われている割合が高い。

資料編P.39参照

表4.2.6 土地利用区分別箇所数と面積

土地利用	箇所数	面積 (㎡)	平均面積 (㎡)
公園	0	0.0	0.0
学校	6	338.0	56.3
公共施設	7	1,480.0	211.4
寺社境内	0	0.0	0.0
集合住宅	8	272.0	34.0
個人住宅	28	924.0	33.0
事業所	25	1,523.0	60.9
その他	1	10.0	10.0
区全体	75	4,547.0	60.6

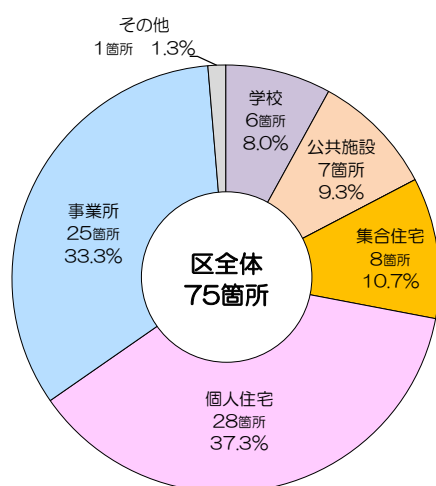


図4.2.53 土地利用区分別の箇所数

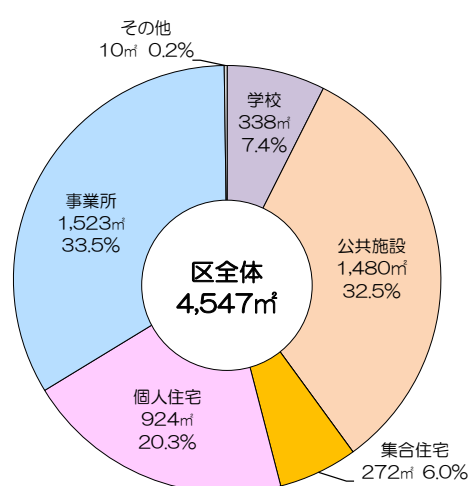
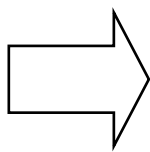


図 4.2.54 土地利用区分別の面積

キ. 経年変化

平成30年度調査
73箇所
4,909m²



令和5年度調査
75箇所
(+2箇所)
4,547m²
(-362m²)

- 平成30年度に調査した壁面緑化で存続していたのは41箇所、消失していたのは32箇所であった。また、新規に34箇所が確認された。

資料編P.40参照

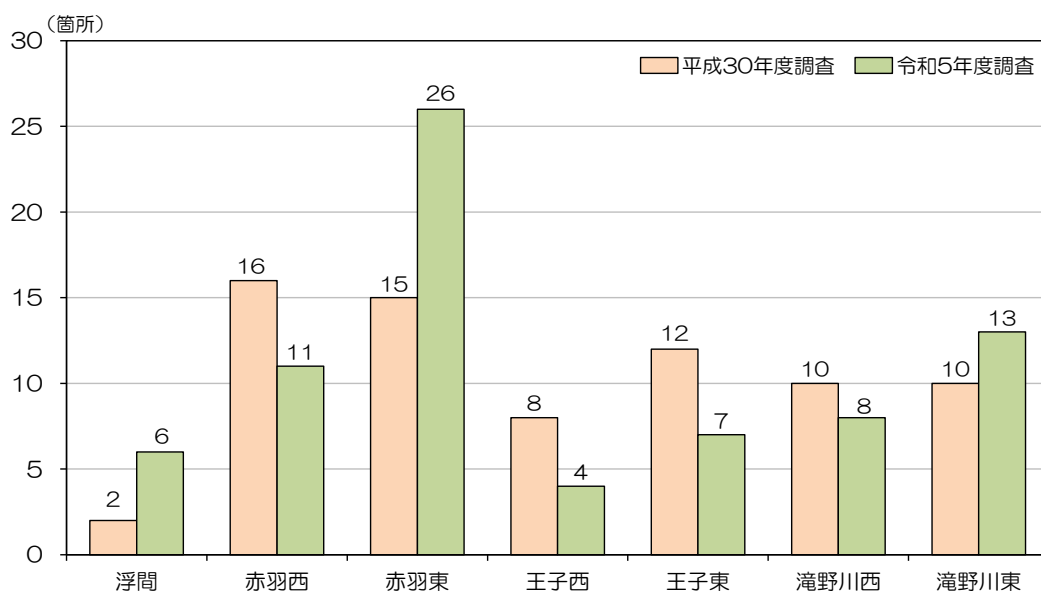


図4.2.55 地区別の壁面緑化の箇所数の変化

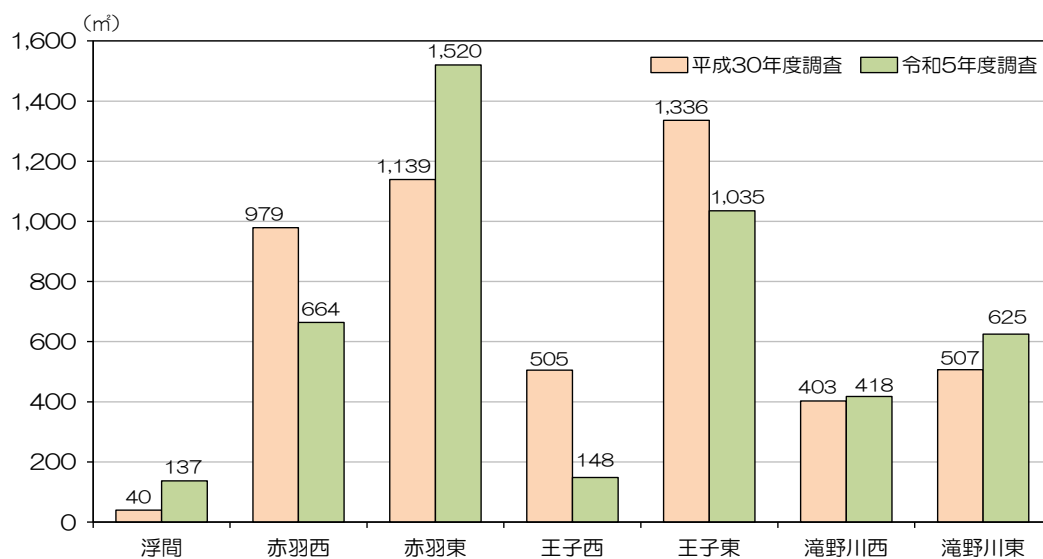


図4.2.56 地区別の壁面緑化の面積の変化

(5) 緑視率

①緑視率の定義

人の目に映る緑の量で、立面的な視野内に占める緑の量の割合とした。

$$\text{緑視率（％）} = \frac{\text{撮影した写真の中で樹木等の緑が占める面積}}{\text{人の視野に似た画角で撮影した画像全体面積}} \times 100$$

②調査方法

(i) 調査対象地点の選定

平成30年度に初めて実施した緑視率調査では、表4.2.7に示すように各地区から「緑の多い場所」と「緑の少ない場所」について、それぞれ1地点を対象地点とし、計14地点を選定した（王子東地区では、今後も良好な緑環境の維持が期待される特徴的な場所が複数あったことから、緑の多い地点として2地点を選定した）。

「緑の多い場所」と「緑の少ない場所」の判断については、国土交通省の社会実験結果※を踏まえ、緑視率25％以上を「緑の多い場所」とした。

調査対象地点は、緑化を推進することで緑を実感できる場所や、今後の緑化活動により改善が見込める場所、改善の予定がある場所を考慮したうえで選定している。

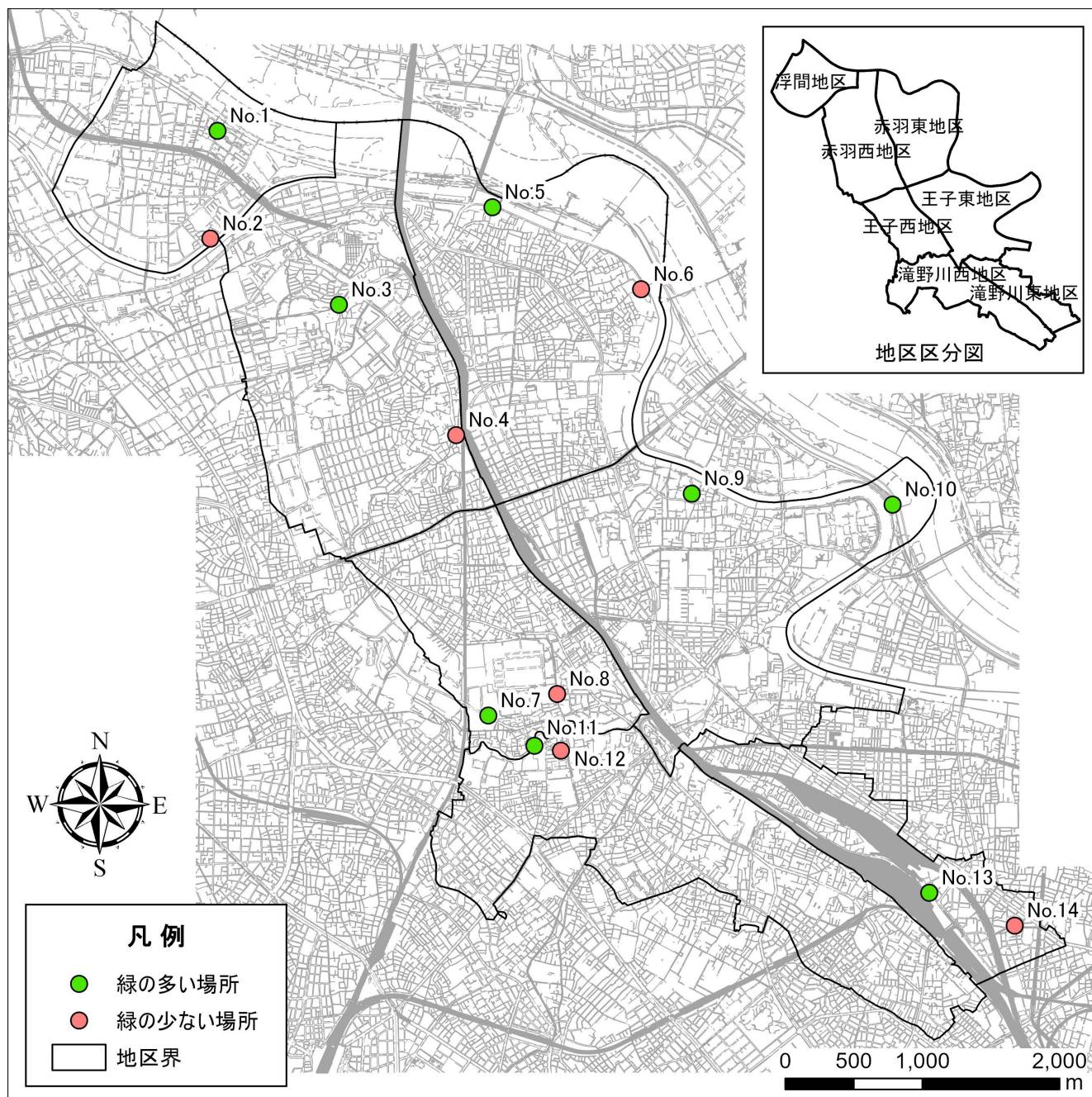
本調査では、平成30年度と同一地点を調査することで、緑視率の変化を追うこととした。

緑の多い場所	樹木などが豊富かつ状態が良好で、今後も良好な緑環境の維持が期待される場所
緑の少ない場所	現在は緑が少なくても、今後何らかの整備に伴い緑の増加が期待される場所

※国土交通省「都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実験調査について」（平成17年報道発表資料）では、緑視率が高いほど潤い感や安らぎ感などの心理的効果が上昇し、およそ25％を超えると緑が多いと感じるという結果が出ており、自治体の多くで緑視率の基準として採用されている。

表4.2.7 選定した緑視率対象地点

地点	調査地区	調査地点	区 分 (緑の量)	用途地域	主な植物
No.1	浮間	浮間1-11 浮間北公園脇	多	第一種中高層住居 専用地域	ケヤキ
No.2	浮間	浮間3-4 新河岸川脇	少	第一種住居地域	ケヤキ、スタジイ
No.3	赤羽西	赤羽台3-17 桐ヶ丘体育館横	多	第一種中高層住居 専用地域	イチョウ、ケヤキ
No.4	赤羽西	赤羽西2-18	少	第一種中高層住居 専用地域	エノコログサ
No.5	赤羽東	岩淵町23 岩淵橋もと	多	準工業地域	ツツジ、シラカシ、 シャリンバイ
No.6	赤羽東	志茂3-43	少	工業地域	モチノキ
No.7	王子西	十条台1-2 障害者総合スポーツセン ター西	多	第一種中高層住居 専用地域	サザンカ、サクラ
No.8	王子西	王子本町3-2 王子本町アパート 8号棟脇	少	第一種中高層住居 専用地域	コブシ
No.9	王子東	豊島8-27 豊島馬場遺跡公園横	多	第一種住居地域	サクラ、ツツジ
No.10	王子東	豊島5 隅田川・荒川の境	多	用途地域外	ヨモギ、イネ科草本、 セイタカアワダチソウ
No.11	滝野川西	滝野川3-72 石神井川河川管理通路	多	第一種中高層住居 専用地域	ツツジ、サクラ
No.12	滝野川西	滝野川3-71 都営滝野川アパート 13号棟前	少	第一種中高層住居 専用地域	ハナミズキ
No.13	滝野川東	東田端2-20 JR東日本 東京支社横	多	準工業地域	ツツジ、サクラ、 スタジイ
No.14	滝野川東	田端新町2-7 NTTコミュニケーショ ンズ前	少	準工業地域	キツタ、ツツジ、 サクラ



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) (MMT利許第05-117号)

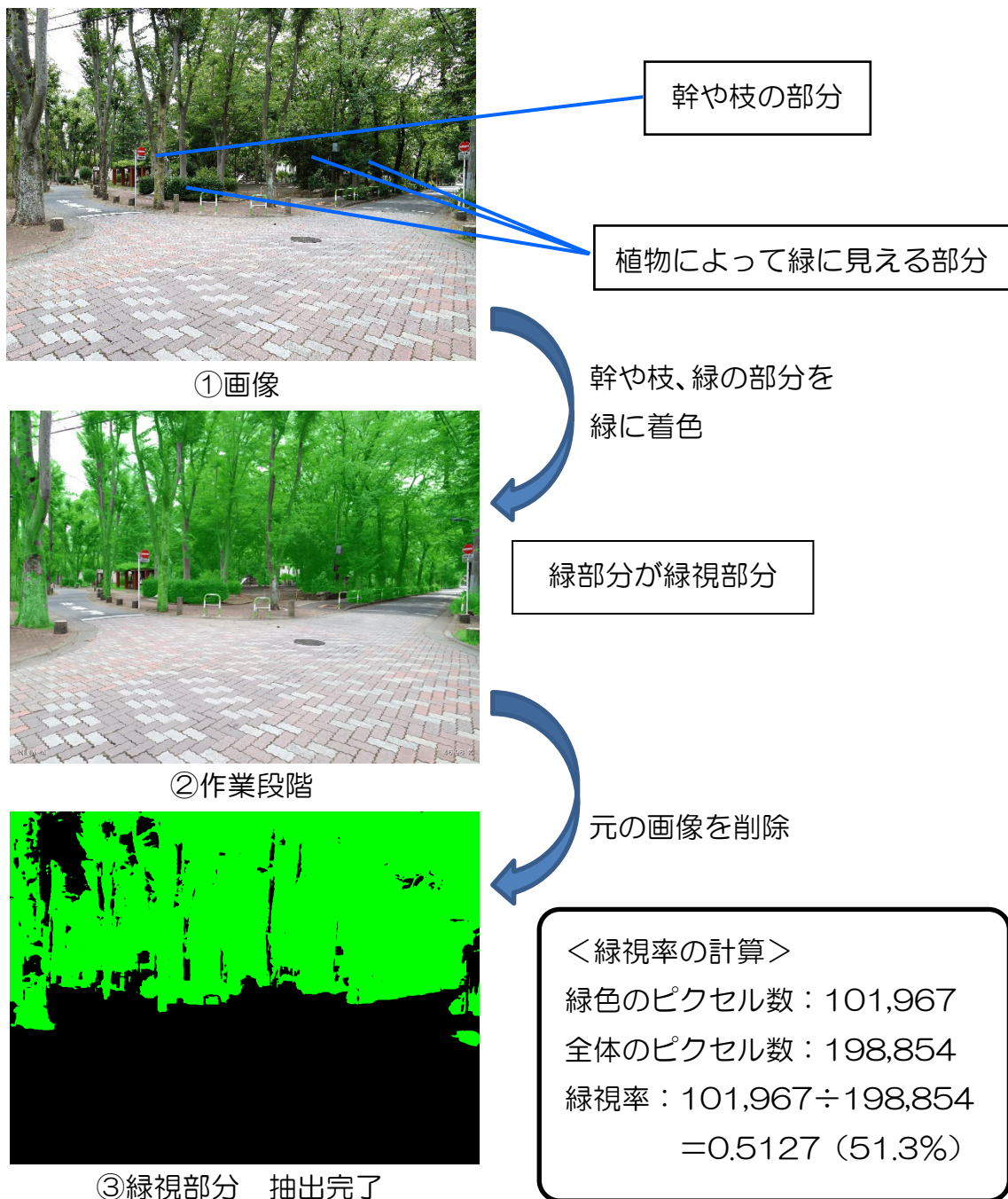
図4.2.57 緑視率調査地点

(ii) 計測方法

(i)で選定した14地点において、デジタルカメラで撮影を行った。
撮影に関する情報は以下の通りである。

デジタルカメラ型番	Canon EOS M3
焦点距離	35mm判換算24mm
画素数	2420万画素
高さ	1.5m（一脚及び水平器使用）
撮影時期	8月（展葉期）

緑視率は、国土交通省のAI緑視率調査プログラムを用いて、画像内に占める樹木等の緑の面積について、以下のように計測した。



③調査結果

- ・ 全14地点平均は、平成30年度の38.7%から39.5%へと上昇した。
- ・ 緑の多い地点平均は、57.0%から57.6%に、少ない地点は14.3%から15.5%にそれぞれ上昇した。
- ・ 緑視率が向上した地点は6地点（緑の多い3地点、少ない3地点）であった。
- ・ 緑視率が最も向上した地点は、赤羽東地区のNo.6で15.0ポイントの増となった。要因は、集合住宅周辺の植栽帯設置が挙げられる。
- ・ 緑視率が最も低下した地点は、滝野川西地区のNo.12で、6.3ポイントの減となった。要因は、樹木の健康度の低下のほか、植栽樹の雑草管理状況の良さがかえって緑視率低下につながったことが挙げられる。
- ・ 緑の多い、少ない地点ともに緑視率が向上したのは、赤羽東地区のみであった。
- ・ 緑の少ない場所（緑の増加が期待される場所）での緑視率向上は、6地点中3地点であった。緑の増加が期待されているものの、周辺に植栽もなく今日に至っているケースも複数存在している。

表4.2.8 地区別の緑視率

地区名	緑の多い場所			緑の少ない場所		
	No.	緑視率(%)		No.	緑視率(%)	
		平成30年度	令和5年度		平成30年度	令和5年度
浮間	1	55.7	51.3	2	7.4	4.5
赤羽西	3	38.8	38.0	4	2.4	6.1
赤羽東	5	36.8	43.1	6	6.9	21.9
王子西	7	77.4	74.4	8	9.6	12.3
王子東	9	64.2	74.2	選定なし		
	10	42.5	37.2			
滝野川西	11	75.6	73.7	12	15.8	9.5
滝野川東	13	65.3	68.6	14	43.7	38.4
平均	(多い)	57.0	57.6	(少ない)	14.3	15.5

*全14地点平均 (平成30年度) 38.7% (令和5年度) 39.5%

※王子東地区では、今後も良好な緑環境の維持が期待される特徴的な場所が複数あったことから、緑の多い地点として2地点を選定した。

【浮間地区】

地点番号：No.1

地点詳細：浮間 1-11（浮間北公園脇）

区 分：緑の多い場所

主な植物：ケヤキ

選定理由：公園と都営住宅の植栽により、地区内で最も緑が多い地点

平成30年度	令和5年度
	
55.7%	51.3%
公園内での剪定等が行われた結果、緑視率が低下した。	

地点番号：No.2

地点詳細：浮間 3-4（新河岸川脇）

区 分：緑の少ない場所

主な植物：ケヤキ、スタジイ

選定理由：都営住宅の建て替えに伴う植栽により、緑の増加が期待された地点

平成30年度	令和5年度
	
7.4%	4.5%
建設行為による大径木の消失で、緑視率が低下した。今後、集合住宅周辺の樹木の生長によって、緑の増加が見込まれる。	

【赤羽西地区】

地点番号：No.3

地点詳細：赤羽台 3-17（桐ヶ丘体育館横）

区 分：緑の多い場所

主な植物：イチョウ、ケヤキ

選定理由：道路および体育館周辺の植栽が多い地点

平成30年度	令和5年度
	
38.8%	38.0%
高木の生長も確認できるが、低木の刈り込みなど管理状況が良いこともあり、緑視率に大きな変化はない。	

地点番号：No.4

地点詳細：赤羽西 2-18

区 分：緑の少ない場所

主な植物：エノコログサ

選定理由：道路拡幅に伴う植栽により、緑の増加が期待された地点

平成30年度	令和5年度
	
2.4%	6.1%
個人住宅周辺の樹木の生長と、空地周辺に繁茂する雑草により、緑視率が若干向上した。期待された道路拡幅による緑の増加は、達成されていない。	

【赤羽東地区】

地点番号：No.5

地点詳細：岩淵町 23（岩淵橋たもと）

区 分：緑の多い場所

主な植物：ツツジ、シラカシ、シャリンバイ

選定理由：道路および民間の集合住宅の植栽が多い地点

平成30年度	令和5年度
	
36.8%	43.1%
集合住宅周辺の樹木と歩道の低木の生長により、緑視率が向上した。	

地点番号：No.6

地点詳細：志茂 3-43

区 分：緑の少ない場所

主な植物：モチノキ

選定理由：民間の集合住宅建設に伴う植栽により、緑の増加が期待された地点

平成30年度	令和5年度
	
6.9%	21.9%
建設された集合住宅に設置された植栽帯により、緑視率が向上した。	

【王子西地区】

地点番号：No.7

地点詳細：十条台 1-2（障害者総合スポーツセンター西）

区 分：緑の多い場所

主な植物：サザンカ、サクラ

選定理由：道路および公共施設の植栽が多い地点

平成30年度	令和5年度
	
77.4%	74.4%
サクラの剪定、サザンカの刈り込みなど管理が良いため、緑視率が若干低下したものの、大きな変化はない。	

地点番号：No.8

地点詳細：王子本町 3-2（王子本町アパート 8 号棟脇）

区 分：緑の少ない場所

主な植物：コブシ

選定理由：都営住宅の建て替えに伴う植栽により、緑の増加が期待された地点

平成30年度	令和5年度
	
9.6%	12.3%
樹木の生長によって緑視率は若干向上した。期待された緑の増加が達成されていないため、実質変化なし。	

【王子東地区】

地点番号：No.9

地点詳細：豊島 8-27（豊島馬場遺跡公園横）

区 分：緑の多い場所

主な植物：サクラ、ツツジ

選定理由：道路および公園の植栽が一体となり緑が多い地点

平成30年度	令和5年度
	
64.2%	74.2%
掲示板設置によって低木や雑草はなくなったが、周囲の低木の生長と刈り込み前の時期であったことから、緑視率は向上した。	

地点番号：No.10

地点詳細：豊島 5（隅田川・荒川の境）

区 分：緑の多い場所

主な植物：ヨモギ、イネ科草本、セイタカアワダチソウ

選定理由：河川沿いの緑が多い特徴的な地点

平成30年度	令和5年度
	
42.5%	37.2%
新たな植栽等はなく、草本の生育状況が緑視率に大きく影響する状況にある。	

※王子東地区では、今後も良好な緑環境の維持が期待される特徴的な場所が複数あったことから、緑の多い地点として2地点を選定した。

【滝野川西地区】

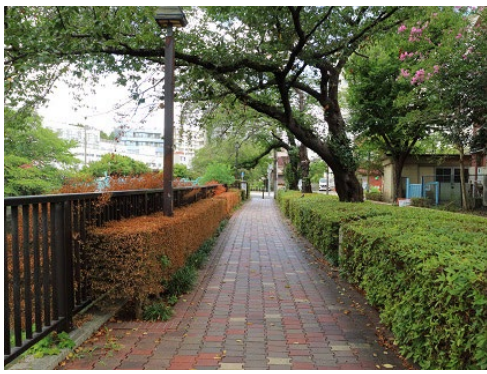
地点番号：No.11

地区詳細：滝野川 3-72（石神井川河川管理通路）

区 分：緑の多い場所

主な植物：ツツジ、サクラ

選定理由：緑豊かな河川緑地として特徴的な地点

平成30年度	令和5年度
	
75.6%	73.7%
サクラの剪定やツツジの刈り込みなど管理が良いため、緑視率が若干低下した。	

地点番号：No.12

地点詳細：滝野川 3-71（都営滝野川アパート 13 号棟前）

区 分：緑の少ない場所

主な植物：ハナミズキ

選定理由：植え替え後の街路樹の生長により、今後緑の増加が期待された地点

平成30年度	令和5年度
	
15.8%	9.5%
街路樹の樹勢低下と、植栽柵の雑草管理によって緑視率は低下している。	

【滝野川東地区】

地点番号：No.13

地点詳細：東田端 2-20（JR 東日本 東京支社横）

区 分：緑の多い場所

主な植物：ツツジ、サクラ、スダジイ

選定理由：事業所および道路の植栽が一体となり、緑が多い地点

平成30年度	令和5年度
	
65.3%	68.6%
フェンス沿いの低木の生長により、緑視率が若干向上した。	

地点番号：No.14

地点詳細：田端新町 2-7（NTT コミュニケーションズ前）

区 分：緑の少ない場所

主な植物：キツタ、ツツジ、サクラ

選定理由：事業所の植栽木の生長により、今後緑の増加が期待された地点

平成30年度	令和5年度
	
43.7%	38.4%
低木を覆う雑草繁茂の解消、反対車線側の低木が消滅したことにより緑視率が低下した。期待された植栽木の生長については、あまり変化がみられない。	